

## ごあいさつ

郷土の歴史を愛する各界のご支援により、平成2年に開館しました当館は、今年でまる7年を経過します。

その間、郷土館協議会の委員の皆様のご審議をいただき、市民の方々のご協力を得て歴史資料の①収集・保管、②調査・研究、③展示・利用の各事業を実施し、特別展はほぼ毎年春秋の2回開催してきましたところ、年間平均295日開館し、延べ約16万人、年平均約3万2千人の方々に来館していただきました。

ここで遅ればせながら、平成2年度から7年度に至る当館事業の成果をまとめました。市民のみなさんにご報告し、広くみなさんからのご意見を拝聴し、郷土館の今後のあり方を検討する資料としても役立てていく考えています。

こうして7年間を振り返ってみますと、当館では、3つの大きな事業(上記①②③)の内、③の展示・利用の特別展事業を中心に展開してきたことが見て取れます。

これまで通算で17回の特別展を行い、そのために必要な資料収集、調査・研究をしてきました。主な特別展としては、平成2年の「飯能文化萌ゆ」、3年の「能仁寺と黒田氏」、「絹は語る」、4年の「写真にみる幕末・明治」、「絵図からの伝言」、5年の「商」、「碑」、6年の「飯能焼」、「瀬戸の磁器人形(ジャパンマイセン)」、7年の「飯能の民俗芸能」、「幕末・明治の医療」展等を好評裡に開催する事ができました。

そのため今回の館報では、特別展に関する報告が中心となりました。当館としては他の館とも共通することですが、独自のテーマを中心に調査研究、資料収集の充実を図り、特別展や企画展が実施できるようにしていきたいと考えています。

また、年々消失することを余儀なくさせられています古文書、民具等々の歴史資料の収集・保管、調査・研究にもより力を入れていきたいと考えています。

ますます情報化時代となっています昨今、「21世紀は過去を見つめる時代になる」ともいわれています。さらに「歴史は最大の情報源」ともいわれます。そういうことから飯能という郷土の今後のあり方、行く末を考える上で、郷土館の果たすべき役割はますます増大することと思います。当館にふさわしいテーマをもった館として、市民の憩える場、生涯学習の交流の場、情報交換の場としての郷土館となるように、今後も市民のみなさまのご参加、ご協力を切にお願いいたします。

平成9年3月

飯能市教育委員会  
教育長 新井一太

# 第1号 目次

---

あいさつ	1
目次	2

---

第1章 施設	3
--------	---

---

第2章 事業	
年度別事業一覧	8
展示	
(特別展一覧)	14
(特別展のできるまで)	15
(各年度の特別展)	18
(その他の展示)	46
講座・学習会	52
資料・施設の利用	60
収集	71
整理・保存	78
調査・研究	79
郷土館協議会	80
博物館実習	85
(郷土館友の会)	88

---

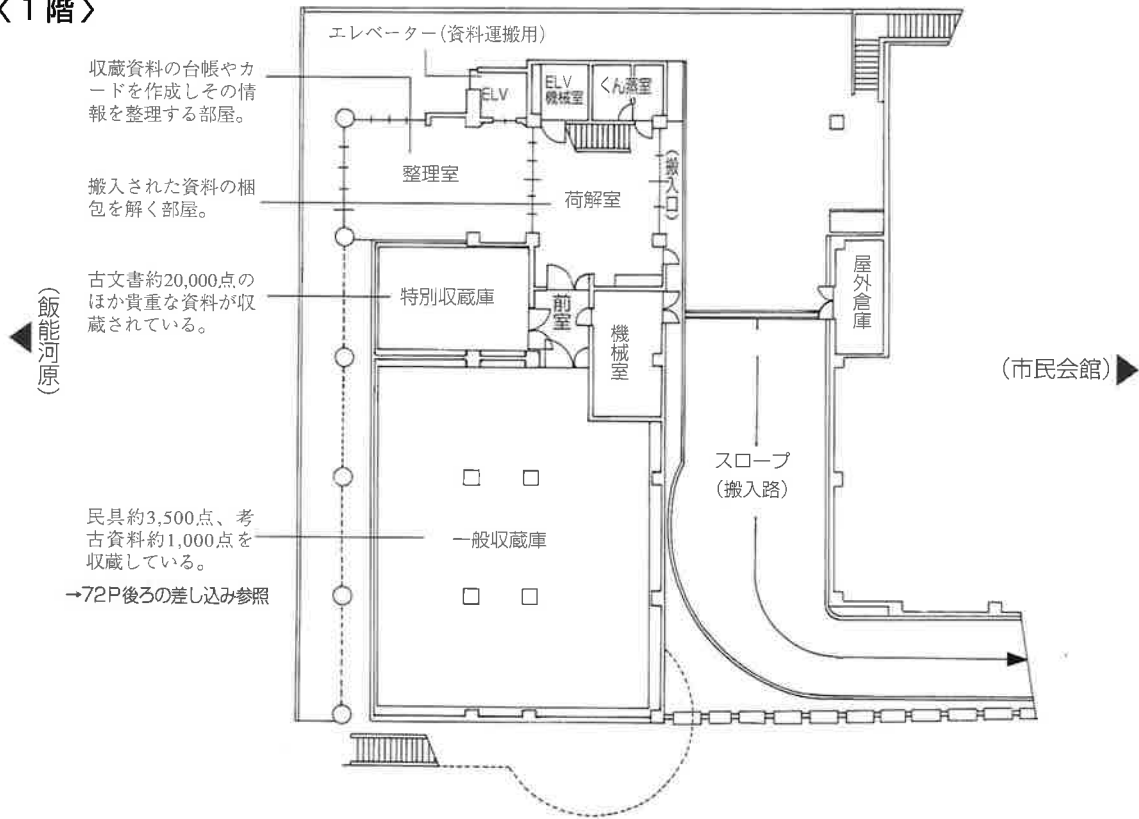
第3章 各種データ	
入館者数	90
歳出予算	92
刊行図書	93
図書資料寄贈機関	94
職員	97
飯能市郷土館条例・規則	98

*Chapter One*

第1章  
施設

# 建物平面図

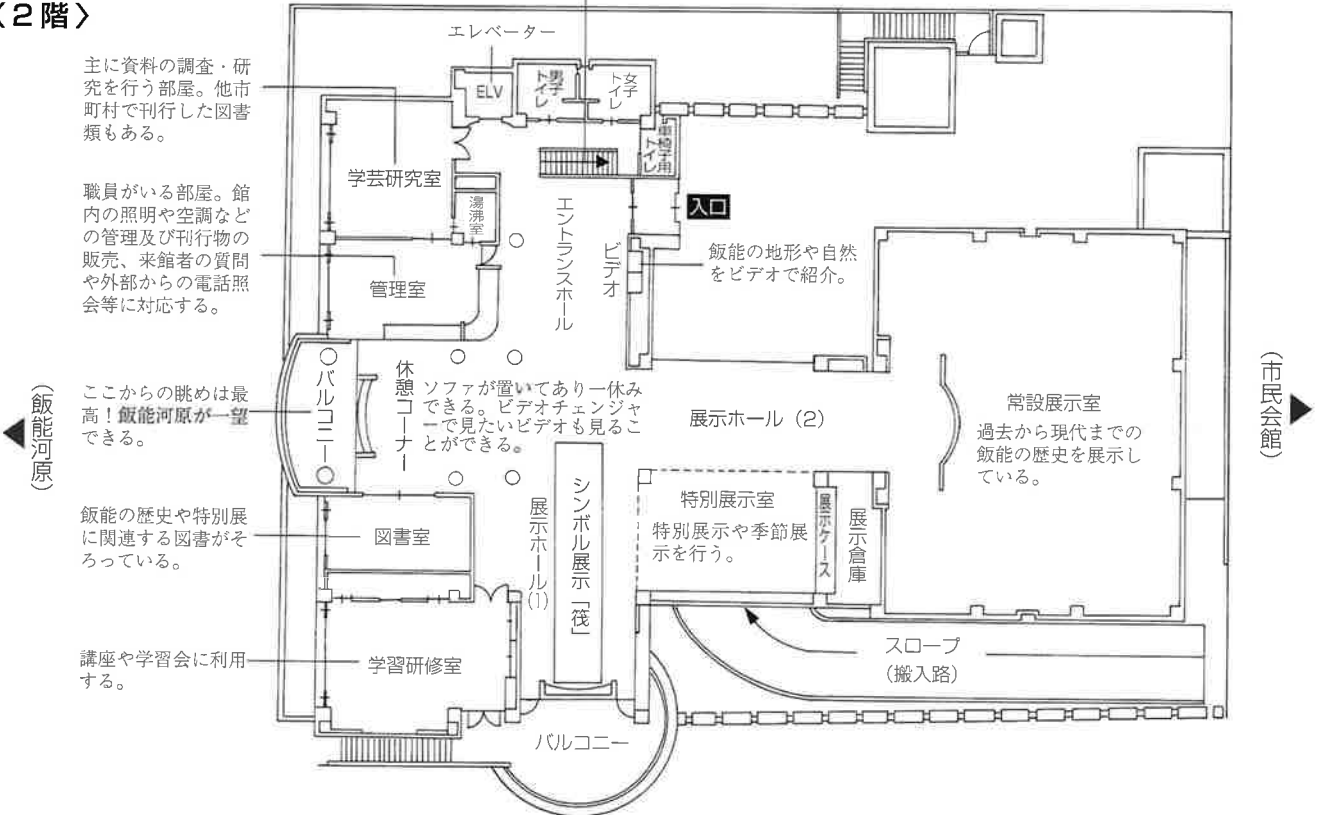
## <1階>



※<R階> 階段をあがると展望台があり、龍涯山、前ヶ貫丘陵など遠くまで見渡すことができる。

(駐車場)

## <2階>



# 面積表

## 〈各階床面積一覧表〉

(単位 m<sup>2</sup>)

室名	面積	室名	面積
<b>1 階</b>	<b>497.458</b>	休憩コーナー	41.520
一般収蔵庫	256.094	学習研修室	62.779
機械室	24.375	倉庫	10.464
前室	11.295	図書室	28.101
特別収蔵庫	47.205	管理室	38.558
荷解室	55.875	風除室	7.360
整理室	58.353	湯沸室	7.848
燻蒸室	11.424	学芸研究室	44.050
エレベーター機械室	9.405	車椅子用トイレ	5.266
エレベーター	7.442	女子トイレ	10.468
屋外倉庫	15.990	男子トイレ	10.361
		エレベーター	7.500
<b>2 階</b>	<b>959.774</b>	<b>R階</b>	<b>40.040</b>
常設展示室	273.965	階段	15.846
特別展示室	59.850	階段ホール	15.944
展示倉庫	20.675	エレベーター	8.250
展示ホール(1)	139.750		
展示ホール(2)	88.128		
エントランスホール	103.131		
		<b>合計</b>	<b>1,497.272</b>

## 〈用途別面積一覧表〉

用途	内訳	面積(m <sup>2</sup> )	割合(%)
教育普及	展示(常設・特別展示室・展示ホール)	561.693	37.5
	その他(学習研修室)	62.779	4.2
収集・保存	(一般収蔵庫・特別収蔵庫・前室・燻蒸室)	326.018	21.8
調査・研究	(学芸研究室・図書室・整理室)	130.504	8.7
管理	(管理室)	38.558	2.6
その他		377.72	25.2
		1,497.272	100.0

## 〈その他〉

敷地面積 2,457.71m<sup>2</sup>

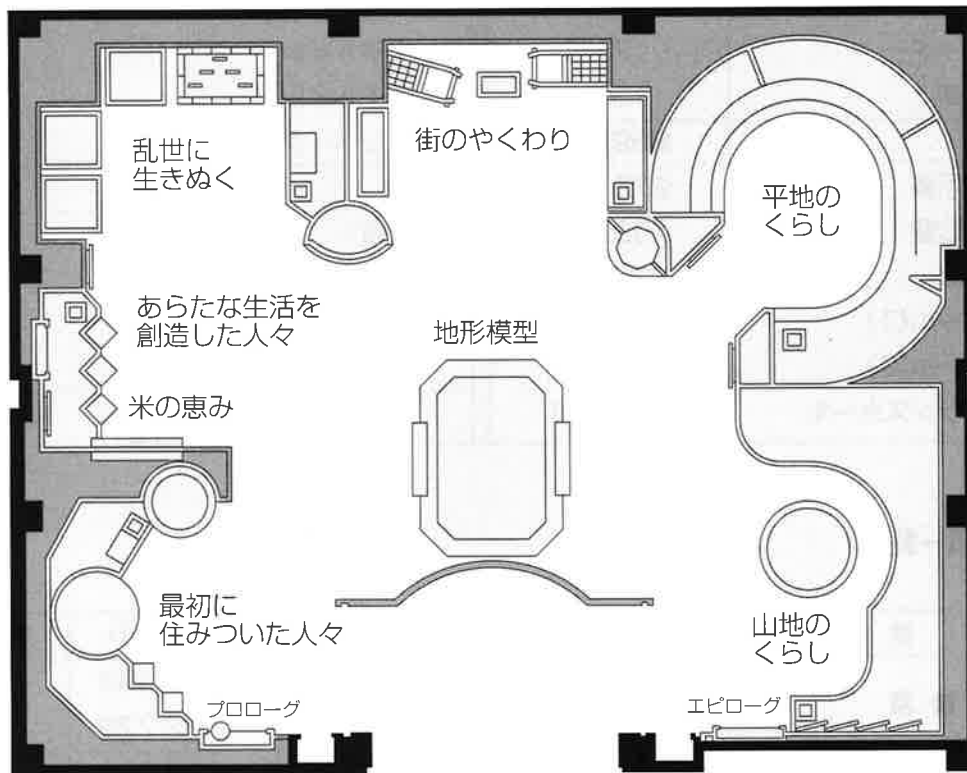
建築面積 1,165.999m<sup>2</sup>

# 常設展示の概要

常設展示は下図のように地形模型を中心とした9つのテーマから構成され、飯能の歴史が旧石器時代から現代まで時代をおってわかるようになっている。

## 〈展示構成上の留意点〉

- ①市民にとっては郷土学習をするためのきっかけを与えてくれる展示であり、市外からの来館者には飯能を紹介するための展示とする。
- ②子どもからお年寄りまで幅広い年齢層に親しみやすく、印象に残る楽しい展示にする。
- ③入館者が展示を「見る」だけでなく、「考え」「学習できる」ような展示とする。
- ④入館者に各時代の特徴が感じとれるようにするとともに、各時代に生きた人々の考え方や「生きざま」が伝わってくるようにする。
- ⑤他に見られない飯能独自の展示をめざす。



## ○展示資料の変更

常設展示室に展示されている資料の損傷を防ぐため、下記のとおり平成5年度に展示資料の交換を行った。

- ①「乱世に生きぬく」(中世)のコーナー

埼玉県指定文化財「実忠打刀」を国指定重要文化財「長光寺雲版」(複製資料)に変更した。(平成6年1月)

- ②「街のやくわり」(近世～近代)のコーナー

振武軍旗の複製資料を製作し、実物資料と交換した。(平成6年4月)

---

*Chapter Two*

---

**第2章**

**事業**

# 年度別事業一覧

平成2年度

月	特別展・ミニ展	学習会・講演会	その他
4			
5	⑳ 飯能市郷土館開館 開館記念特別展 「飯能の国指定重要文化財」 「わたしの宝物 一思い出に残る品々」 ㉑	㉒ 展示説明会	
6			
7	㉓ ミニ特別展 「飯能の指定文化財」 ㉔		
8	㉕ 特別展 「戦時中の暮らし」 ㉖	㉗ ㉘ ㉙ 夏休み子ども歴史教室 ㉚ 座談会「戦争を語るつどい」	㉛ ~ ㉜ 夏休み宿題相談コーナー
9			㉝ ~ ㉞ 博物館実習
10	㉟ ミニ特別展 「何に使われた道具でしょう」 ㊱ 特別展 「飯能文化萌ゆ」 ㊲	㊳ 体験学習会「十五夜の味」	
11		㊴ 講演会「『飯能文化』発行のころ」	
12		㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ 古文書講座「むかしの飯能を知ろう」	
1			
2	㊺ 特別展 「ひなまつり」	㊻ 体験学習会「折り紙で折るおひなさま」	
3	㊼	㊽ 体験学習会「石で作るおひなさま」	

平成3年度

月	特別展・ミニ展	学習会・講演会	その他
4			
5	特別展 「能仁寺と黒田氏」	12 歴史散歩「日跡への招待」	9 ~ 29 穀倉解体調査
6		9 れきし講演会「能仁寺と黒田氏」	
7	郷土館ギャラリー 「飯能の陶芸家たち」 (郷土館友の会主催)		26 民家調査
8		7 ~ 9 夏休み子ども歴史教室	7 ~ 21 博物館実習
9			
10			30 ~ 4 収蔵庫燻蒸（臨時休館）
11	特別展 「絹は語る 一飯能の絹織物一」	3 講演会「飯能の織物」	
12			
1			
2	ミニ展 「ひなまつり」		
3			10 ~ 20 博物館実習

平成4年度

月	特別展・ミニ展	学習会・講演会	その他
4			
5	特別展 「写真にみる幕末・明治」	17 講演会「日本写真事始」	
6			
7	「名栗川流域の金属文化と伝承」展 (名栗川金属文化の会主催)	19 阿寺諏訪神社神楽実演	
8	埋蔵文化財出土品展 「掘りおこせ! 古代からのメッセージI」 (生涯学習課と共催)	5 ~ 7 夏休み子ども歴史教室 19 23 縄文土器復元体験講座	4 ~ 16 博物館実習
9			16 ~ 20 展示室燻蒸 (臨時休館)
10			
11	特別展 「絵図からの伝言」		
12		6 講演会「絵地図」	
1			
2			
3			

平成5年度

月	特別展・ミニ展	学習会・講演会	その他
4			
5	特別展 「商 一飯能の広告展一」	16 講演会「広告を10倍楽しむ方法」	
6			
7	ミニ展 「教科書」		
8	埋蔵文化財出土品展 「掘りおこせ！古代からのメッセージⅡ」 (生涯学習課と共催)	4 ~ 6 夏休み子ども歴史教室	
9			1 ~ 11 博物館実習
10			
11	特別展 「碑 一連帯のエネルギー一」	21 講演会「碑」	
12			
1			
2			
3			

平成6年度

月	特別展・ミニ展	学習会・講演会	その他
4			
5		<b>15</b> 飯能焼シンポジウム	
6	特別展 「一幕末・明治の幻陶— 飯能焼」	<b>22 29</b> <b>4 12</b> やさしい板碑教室 <b>19</b> 筒描体験学習会（郷土館友の会と共催）	
7	<b>3</b> <b>8</b> <b>31</b> ミニ展 「女性雑誌 —表紙絵と目次—」		
8	<b>9</b> 埋蔵文化財出土品展 「掘りおこせ！古代からのメッセージⅢ」 <small>（生涯学習課と共催）</small>	<b>21</b> スライド映写会	<b>2 ~ 17</b> 博物館実習
9	<b>11</b>	<b>3 ~ 5</b> 夏休み子ども歴史教室	<b>26 ~ 29</b> 収蔵庫燻蒸（臨時休館）
10	<b>15</b>	<b>30</b> 講演会「製鉄遺跡から見た古代～中世の関東地方の鉄文化について」 <small>（名栗川金属文化の会と共催）</small>	
11	特別展 「 <i>Japan Mussen</i> —瀬戸の磁器人形—」	<b>13</b> 講演会「瀬戸・磁器人形」	
12	<b>15</b>	<b>6 13 20 27</b> <b>4</b> やさしい古文書講座	
1			
2			
3	<b>11</b> <b>31</b> ミニ展 「双木本家飯能焼コレクションⅠ」		

平成7年度

月	特別展・ミニ展	学習会・講演会	その他
4		22 23 お囃子実演会	
5	特別展 「いろどりとにぎわいのとき —飯能の民俗芸能・屋台囃子と獅子舞—」	29 } 7 } 流派聞き比べ	
6		14 21 23 } 4 18 } お囃子実演会 11 講演会「青梅市の獅子舞」	
7			
8	特別企画展 「戦時下の生活」		
9		9 ~ 11 夏休み子ども歴史教室	11 ~ 15 展示室燻蒸（臨時休館）
10		29 講演会「畠山重忠と金属文化」 （名栗川金属文化の会と共催）	
11	特別展 「飯能の村医者 —幕末・明治の医療—」	19 講演会「日本最初の帝王切開術」	
12			
1			
2	ミニ展 「双木本家飯能焼コレクションⅡ」	24 民俗行事のつどい「ひなまつりってなあ〜に」	
3			

## 特別展一覧（平成2年度～平成7年度）

年度	題名	期間	日数	来館者数	展示点数	経費(円)	参照頁
平成 2	飯能の指定文化財 わたしの宝物	4月20日(金)～ 5月17日(木)	28	10,297	50	4,865,870	→18p
	戦時中の暮らし	8月 1日(水)～ 8月26日(日)	23	1,107	78	152,749	→20p
	飯能文化萌ゆ	10月16日(火)～11月18日(日)	30	4,028	38	665,520	→22p
	ひなまつり	2月 5日(火)～ 3月 8日(金)	28	3,957	22	342,898	→24p
3	能仁寺と黒田氏	4月20日(土)～ 6月16日(日)	50	6,599	26	1,170,742	→26p
	絹は語る	10月15日(火)～12月15日(日)	54	5,520	29	985,912	→28p
4	写真にみる幕末・明治	4月21日(火)～ 6月21日(日)	53	9,816	119	2,490,956	→30p
	絵図からの伝言	10月15日(木)～12月15日(火)	52	4,915	28	1,064,327	→32p
5	商(あきない)	4月20日(火)～ 6月20日(日)	52	7,213	122	1,487,551	→34p
	碑(いしづみ)	10月15日(金)～12月15日(水)	52	5,333	23	1,153,096	→36p
6	飯能焼	4月20日(水)～ 7月 3日(日)	63	12,072	166	6,675,771	→38p
	<i>Japan Mission</i>	10月15日(土)～12月15日(木)	51	10,486	161	4,915,774	→40p
7	いろいろと にぎわいのとき	4月20日(木)～ 6月20日(火)	52	7,245	57	1,944,211	→42p
	飯能の村医者	10月15日(日)～12月 3日(日)	41	5,653	71	1,879,363	→44p

# 特別展のできるまで～学芸員のつづやき～

当館では、春と秋の年2回特別展を開催している。特別展がオープンするまでにはさまざまな準備過程が必要となるが、ここでは、完成した展示からは想像できない特別展の準備経過について、平成3年度春に開催された「能仁寺と黒田氏」展を例に紹介してみることにする。

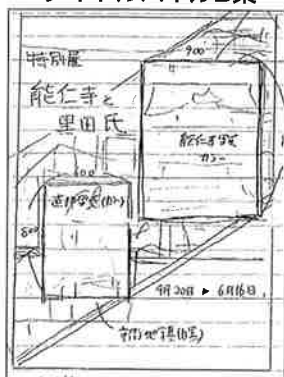
平成2年 11.29	郷土館協議会において「能仁寺と黒田氏」展開催を急遽決定
平成3年 2.5	ひなまつり展開始 ホッと息つく間もなく、「能仁寺と黒田氏」展の準備にかかるS学芸員。
2.8	能仁寺の資料調査(N館長・S学芸員)
2.21	ポスター・パンフレット原案完成 「ポスターは多くの人々の目に触れるものであるし、この出来次第で入館者数が変わってくる。また郷土館のセンスが問われるところでもあり、それだけにデザイン・色使いには気を遣う。特に色は最後まで迷う。」期限と戦いながら悩むS学芸員。
2.28	能仁寺より資料借用(N館長・S学芸員)
3.13	(「ひなまつり」展の片づけ開始)
3.23	展示構想検討 「今回の展示資料は全て能仁寺所蔵のものだが、その目的は黒田氏と能仁寺の歴史及び飯能との関わりを伝えることなので、寺宝展的な展示にならないように注意。」展示での成否を左右する構想段階で十分検討を加えるS学芸員。 一方、N館長は展示解説文・パンフレット原稿作成に忙しい日々。
3.24	引き続き展示構想検討 「今回は“黒田氏”と“飯能の発展における黒田氏の役割”の二つを伝えたい。しかし、展示の中心となる能仁寺の資料がそのまま伝えたいことには結びつかない。だが、実際これらの資料が訴えかけてくる迫力はかなりのものがある。どうするか…。」担当S学芸員の苦悩の日々が続く。
3.25	タイトルパネルデザイン検討 能仁寺の本堂と黒田直邦像の写真をメインにしたものなどA B C Dの4案を作成。もちろんいいものを作りたいのは山々だが、予算という大きな壁が立ちはだかる。このうち迫力に欠けるA、費用のかかるBなどをボツとし、最終的に時間、費用ともにかからないD案に決定。

タイトルパネルA案



白黒の能仁寺本堂の写真のまん中に黒田直邦像の写真をカラーでのせる。

タイトルパネルB案



市街地の白黒写真の上に能仁寺と黒田直邦像の写真をカラーで重ねる。

タイトルパネルC案



能仁寺本堂をラシャ紙で作ってその上に黒田直邦像の写真をのせる。

タイトルパネル完成写真(D案)



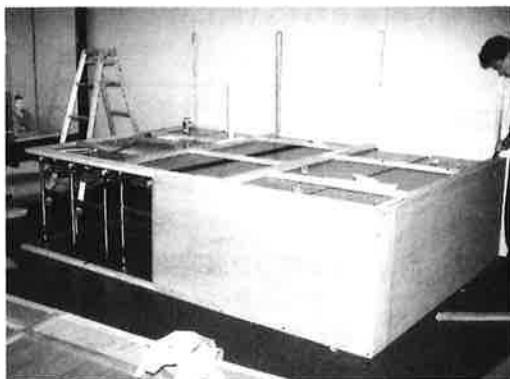
黒田家の紋をのりパネで作ったもの。

### 3.26 展示構想決定

何度も検討を重ねた結果、展示資料だけだと「飯能の発展」をうまく伝えることができないので、この部分については図表パネルなどで示しながら、とにかく実物資料のもつ迫力を生かしていく方向で構想を決定！

### 3.28 展示設計図作成開始(～4.6)

「特別展示室には固定のガラスケースが1面しかなく、このままでは展示するスペースが全然足りない。とって露出展示にして人に触れられて破損でもしたら、郷土館の信頼が失われ二度と貴重な資料を貸してくださらないだろう。しかたがない、こうなったら館にあるものでどうにかするしかない…。」(S学芸員)→検討の結果、長机と穴あきパネルを使ってケース・展示台を作ることにする。「もうすぐ4月だ。異動で男の職員もやってくるし…。なんとかなるだろう！」と度胸を据えたS学芸員であった。



絵図展示台の組立作業

この日、パンフレット用写真撮影

### 4. 2 外看板製作開始

担当は何と言っても頼りになる当館の臨時職員の4人の女性。

### 4.3-4 展示パネル用写真撮影

S学芸員、展示に使う写真を撮影するため、重さ15kgもあるカメラバックを担いで、多峯主山の頂上近くにある、初代藩主黒田直邦の廟所まで登る。日頃の運動不足がたたったか、かなりきつそうだ。ストラップも肩に食い込む。気が付いたらS学芸員の肩には紫色のあざができていた。

### 4. 4 Y学芸員、遅ればせながら着任

「今日からやっとあこがれの郷土館職員だ。これから頑張るゾ！」これからふりかかってくる試練も知らず、意気揚々のY学芸員であった。

### 4. 9 展示用大工仕事開始

着任後3日間は、伝票作成などの事務処理をしていたY学芸員に、突然、図面が渡され、「このとおりに展示台2台、展示ケース1台を15日までに完成させるように…。」とS学芸員の有無を言わさない一言。思わず目がテンになったY学芸員。「雑芸員とは聞いていたがいきなり大工仕事か…。俺、正直言って技術苦手なんだよな。本当にできるのかな。」

### 4.10 引き続き展示用大工仕事

設計図を見ていたY学芸員、何と角材を115本、ベニヤを27枚切らなくてはならないことに気づく。しかもここにある道具は鋸1本だけ。気が遠くなってきた。午後5:30。まだ採寸すら終わらない。あたりはそろそろ暗くなってきた。もう今日は無理だと思っていたY学芸員に、S学芸員の一言「これを使えばまだまだできる」その手にあったのは延長コードと写真撮影用のライトだった。まだまだ夜は長い…。



このころS学芸員といえば、学芸員の力のみせどころ“解説パネル”の原稿の作成・ワープロ打ちに必死になっていた。

### 4.12 外看板3枚完成

ペンキにまみれながら頑張った7日間。最後に出た一言はただ「疲れた」のみ。しかしこれで終わりではない。休む間もなくタイトルパネル等の作成にとりかかる臨時職員。

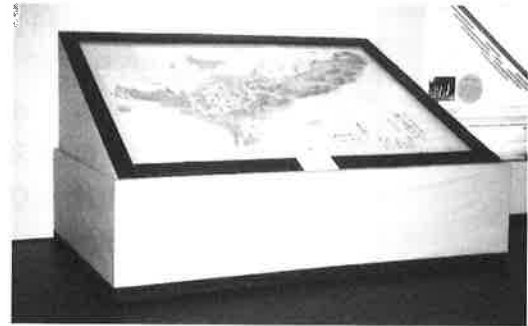
**4.14** 部材はほとんど切り終え部分的な組立も終わった。本日から特別展示室の会場設営に入る。N館長以下職員全員が特別展示室に集合してとりかかる。大きな展示台を作ったのはいいが、側面をどうするかが問題となる。ペンキで塗ると見た目が悪いし、何かを貼るにしてもラシヤ紙では小さすぎる。考えあぐねたS学芸員であったが、大きくて厚みもある写真撮影用のバックスクリーン(背景紙)を思い付く。「これで何とかなるか!?!」…早速トライする。思った以上にいい出来で一同満足。

**4.17** 深夜11:15まで作業

同じく全員で展示台の組立。何といってもモノが大きい(2,920×1,978×2,317mm)ので組み立てるのも大変だ。

**4.18** 資料の展示

いよいよ資料を慎重に開梱し、展示を始める。事前に図面上には割り付けしてあるが、実際展示してみるとなかなか思った通りにいかない。軸装がよそを向いて見づらかったり、テストではうまく組んだ部分が展示資料を入れてみるとなぜかはまらなかったり。「どうしたわけだ…。明日は内覧会で、市長をはじめ、助役、能仁寺の住職もおいでになる。なんとしても今日中に形にしておかなければならない。」焦る職員一同。



完成した絵図の展示台

この日展示作業が終了したのは午前1時すぎ。

**4.19** 内覧会開催、タイトルパネルが完成

展示が完成し、歓声があがる。さすがに疲れはピークに達している。

**4.20** 特別展開始

お客さんが入り始める。どういう反応があるのか気になり特別展示室へ行くS学芸員。写真や図などを入れて視覚的に訴えるように工夫した年表もよく見てくれていて一安心。「職員同志で議論を重ねながら、展示のコンセプトや構成などを検討していき、資料の魅力を引き出しながら、メッセージをいかにわかりやすく表現するかに工夫を重ねていく特別展の準備。このようにみんなで協力しながらひとつのものを作り上げていくことは、楽しいことである。この先、館の職員だけでなく、もっと多くの人に参加することによってよいアイデアが生まれ、その楽しさをみんなで分かち合えたらどんなに素晴らしいことか。」このときの職員の想いが、平成4年度より企画委員会を組織することにつながっていく。これは特別展のテーマに興味のある市民や郷土館協議会委員とともに、さまざまな見方から議論しながら企画を進めていくもので、調査活動のほか、ポスターのデザイン、さらには展示作業等もともに行うこともある。



# 飯能の国指定重要文化財 わたしの宝物 —思い出に残る品々—

期 間	平成2年4月20日(金)～5月17日(木)		
開館日数	28日		
入館者数	10,297人 (1日平均367.8人)		
総費用	4,865,870円 (入館者1人あたり472.6円)		
(内訳)	印刷費 431,570	資料借料 40,000	
	展示委託料 2,938,000	報償費 22,900	
	資料運搬費 1,040,000	警備委託料 319,000	
	資料保険代 74,400		

## 1 趣 旨

市内には常楽院軍荼利明王立像、長光寺雲版、福德寺阿弥陀堂の3点の国指定重要文化財がある。このうち軍荼利明王立像は常楽院の秘仏なのであまり公開されることがなく、また雲版も埼玉県立博物館で展示しているため、実物は市内にない。そこで郷土館開館を機により多くの市民にこれらの重要文化財を見てもらい、文化財に対する関心を高めてもらおうと企画したのが「飯能の国指定重要文化財」展である。

一方、「わたしの宝物」展は、郷土館を市民に愛され親しみの持てる館に育てていきたいという願いを込めて企画した。他人から見ると何でもない品物であっても本人にとっては思い出深い大切な品物がある。そのような品々を市民に出品してもらい、市民といっしょになって展示を作り上げていく、いわば「市民参加型」の展示を行った。

このような二つの特別展を同時に開催したのは、郷土館では歴史的に貴重な文化財だけでなく、市民一人一人にとっての宝物も、同じ価値のある大切なものとして扱っていかうという気持ちのあらわれである。

## 2 展示の構成

- (1) わたしの宝物(特別展示室)
- (2) 飯能の国指定重要文化財(常設展示室)

## 3 主な展示資料

軍荼利明王立像(高貴山常楽院蔵)・雲版(鳳林山長光寺蔵)、市民の方々から応募のあった思い出に残る品々など50点



飯能の国指定重要文化財展 (常設展示室)

## 4 印刷物

ポスター(B2版4色刷)	300部
パンフレット(B5版4ページ4色刷)	10,000部

## 5 関連行事

### ◎展示説明会

日 時 平成2年4月22日(日) 午後1時30分～

講 師 柳戸 信吾 (当館学芸員)

## 6 評価と課題

会期中非常に多くの入館者があり、「国指定重要文化財」展については、ふだん見ることのできない文化財を見ることができてよかったという人が多かった。また「わたしの宝物」展は、市民が参加した展示会であったため郷土館をより身近に感じてもらえることができ、出品者が知人を誘って何度も来館してくれるという効果もあった。企画としては成功したといえよう。しかし、「国指定重要文化財」展では、温度・湿度の調整に苦労した。このようにレプリカを含め様々な性質の資料が展示されている場合、会期の間、展示環境を全体としていかに良好な状態に維持するかが課題となるであろう。



わたしの宝物展 (特別展示室)

# 戦時中の暮らし

期 間	平成2年8月1日(水)～8月26日(日)		
開館日数	23日		
入館者数	1,107人 (1日平均48.1人)		
総費用	152,749円 (入館者1人あたり138.0円)		
(内訳)	写真関係費	8,900	賃 金 70,525
	消耗品費	73,324	

## 1 趣 旨

戦後45年。多くの犠牲者を出したあの悲惨な太平洋戦争の記憶が次第に風化し、忘れ去られようとしている。戦後、その傷跡を癒すかのように、わたしたちはひたすら経済復興の道を進んできた。しかし、「経済戦争」といわれるような今日の世界情勢を見るとあの時代をもう一度思い起こすことが必要であろう。

終戦記念日を迎える夏に、人類の愚かな、しかし貴重な体験をより多くの人に知ってもらうために企画したのがこの特別展である。

今回の特別展では戦争を体験した世代だけでなく、むしろそれを知らない多くの若者や子どもたちに戦争の悲惨さを伝えることに重点を置いた。そして、この特別展をきっかけとして家族や仲間同士で戦争について語り合えるようになればよいと考えた。

## 2 展示の構成

- (1) 「ほくは勉強」
- (2) 「家の中」
- (3) 「お兄さんも戦場へ行った」
- (4) 「まちは戦争一色」
- (5) 「東京からのお友だち」
- (6) 「時代の流れ」

## 3 主な展示資料

戦中の教科書、石盤、防空頭巾、看板「空襲警報」、紙芝居「銃後の防犯」、『写真週報』、疎開児童が書いた絵、朝日新聞縮刷版など78点



展示風景 (特別展示室)

## 4 印刷物

パンフレット(B5版4ページ) [市内印刷]

## 5 関連事業

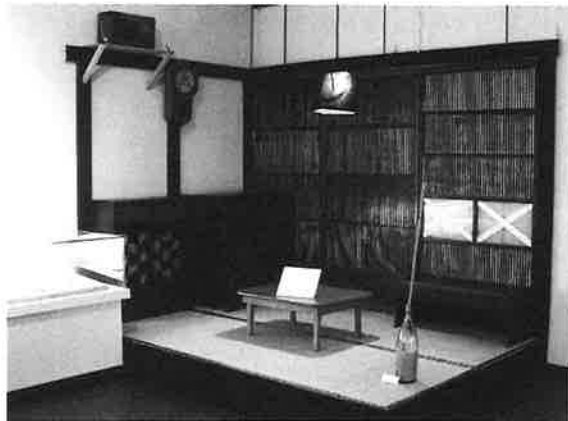
◎座談会「戦争を語るつどい」

日時 平成2年8月12日(日) 午後1時30分～  
会場 当館学習研修室  
参加者 9人

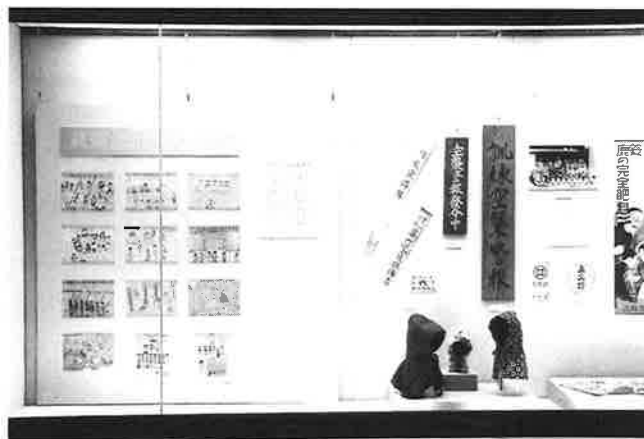
## 6 評価と課題

今回は事前調査がほとんどできず、当時の雰囲気を中心に表現できなかったことが反省点である。また戦争を体験した世代からは「当時の状況はもっと混沌としたものだった」「展示がさっぱりしすぎている」などの意見が出たが、「なぜなにポスト」には「なぜ人間は戦争をしたのか」とか「戦争で何人くらいの人が死んだのか」といった子どもからの投書があり、戦争を知らない世代に戦争について関心をもってもらおうという目的はある程度達成できたと思う。

この展示は委託をせずに準備をすべて職員の手で行う「手作り展示」の第1回目であったため、製作方法や展示方法などがわからず様々な点で苦労したが、このときの経験は次回以降の特別展に生かされている。



(2) 「家の中」のジオラマ



固定ケースの展示

# 飯能文化萌ゆ

期 間	平成2年10月16日(火)～11月18日(日)			
開館日数	30日			
入館者数	4,028人(1日平均134.3人)			
総費用	665,520円(入館者1人あたり165.2円)			
(内訳)	印刷費	468,650	報償費	10,000
	写真関係費	47,100	賃 金	24,180
	消耗品費	115,590		

## 展 示

### 1 趣 旨

今から45年前、人々は太平洋戦争の敗戦によって方向を見失い、自信を喪失し、ともすれば生活への意欲すら無くしていた。そんな荒廃した社会情勢の中、奥武蔵の小都市「飯能」でひとつの文化運動が起こった。雑誌『飯能文化』の発行である。この雑誌は、戦争で荒廃した人々の心を文化の昂揚によって癒すことを目的として、昭和22年8月に創刊され、多くの期待に応えて翌年7月まで毎月欠かさず発行されている。内容は文学だけにとどまらず、寄稿者には画家、彫刻家、音楽家、技術者、歴史家、小学生、中学生など各層各分野の人たちを網羅しており、地域の広がりも、飯能を中心として入間郡域、東京の人までが参画している。まさに飯能に拠点を置いた一大文化運動であった。紙もなく停電もしばしばあったこの時代に、これだけの文化運動をおしすすめた人々のパワーには驚かされるものがある。

このように、飯能で人々が文化運動に燃えた時期があったことを市民に広く紹介するとともに、郷土館開館を機に再び燃える時代が到来することを期待して、この特別展を開催した。



ポスター

### 2 展示の構成

- (1) 戦後の荒廃
- (2) 『飯能文化』創刊
- (3) 『飯能文化』関係者の作品

### 3 主な展示資料

雑誌『飯能文化』、画「HANNÔ」(棟方志功)、棟方志功書簡、詩「光のながれ」書(蔵原伸二郎)、俳句・短冊(水原秋桜子)、「創作選評」原稿(打木村治)、句集「胸形変」板画(石田波郷)、看板「飯能文化編輯所」など38点

### 4 印刷物

- |                     |        |
|---------------------|--------|
| ポスター (B2版4色刷)       | 300部   |
| パンフレット (B5版8ページ4色刷) | 5,000部 |

## 5 関連事業

◎講演会・座談会「『飯能文化』発行のころ」

日時 平成2年11月11日(日) 午後1時30分～  
講師 赤田 喜美男氏  
会場 当館学習研修室  
参加者 40人

## 6 評価と課題

著名な作家の作品が展示してあったため見ごたえがあったようで、特に問題点につながるような意見もなく好評であった。ただ、現在市内で活躍している文化団体のうちの多くは『飯能文化』発行の時期に創設されているのであるが、それはパンフレットで示しただけであった。『飯能文化』の歴史的な意義を伝え、現在とのつながりを明らかにする上でも、ぜひ展示でも表現すべきであった。



展示風景（特別展示室）



郷土館友の会主催「はんのう文化村」

# 【ひなまつり

期 間	平成3年2月5日(火)～3月8日(金)		
開館日数	28日		
入館者数	3,957人 (1日平均141.3人)		
総費用	342,898円 (入館者1人あたり86.7円)		
(内訳)	写真関係費	19,100	報 償 費 18,000
	消耗品費	170,793	賃 金 135,005

## 1 趣 旨

郷土館で季節ごとの行事を紹介し、今の生活では忘れ去られつつある季節感やその時々の人々の思いを伝えることは大切なことである。そのために小コーナーでそれぞれ季節にあった年中行事などを紹介する「季節展示」を行いたいと考えているが、これは未だに実現していない。今回の特別展は、その「季節展示」の規模が拡大したものととらえ、ひな人形の展示を通じてひな祭りの雰囲気を味わってもらい、春がすぐそこまで来ているという季節感を感じてもらおうという趣旨で企画した。また、ひな祭りが人々の生活スタイルの中でどのような意義を持っているのか、ひな祭りに込められた子どもに対する親の愛情なども表現した。

## 2 展示の構成

ひな祭りの雰囲気を味わってもらうことを目的としたため、ひな人形は特にコーナー分けをせずに展示した。ただし、ひな祭りのときに撮った写真は「わが家のひな祭り」のコーナーで、手作りひな人形教室で作った作品は「わたしの作ったおひなさま」のコーナーでそれぞれ展示した。

## 3 主な展示資料

享保雛、御殿つき5段飾り、内裏雛、中山家より拝領の雛人形、壇飾り雛、雛人形の絵、雛人形の背景屏風など22点



展示の入口

## 4 印刷物

パンフレット (B5版4ページ)

ちらし (B5版)

[いずれも庁内印刷]

## 5 関連事業

◎体験学習会「折り紙で折るおひなさま」

日 時 平成3年2月10日(日) 午前10時～

講 師 森田 とみ子氏  
会 場 当館学習研修室  
参加者 31人



展  
示

◎体験学習会「石で作るおひなさま」

日 時 平成3年3月3日(日)  
午前10時～

講 師 岸 憲一氏  
会 場 当館学習研修室  
参加者 33人

体験学習会「石で作るおひなさま」

## 6 評価と課題

今回の特別展は1日平均の入館者数では開館記念特別展に次いで多く、好評であった。

原因としては「ひな祭り」という誰でもが親しめる身近なテーマであったことと、展示品を市民から募集したことの2点が考えられる。また体験学習会で作ったおひなさまを展示することにより「動き」が出たとともに、そのコーナーを市民が作り上げたという意識が出て、参加者が親しみをもてたようである。このような学習会と一体となった展示や市民参加の展示は、どんな種類の展示でもできるわけではないが、今後積極的に取り入れるべきであろう。



展示風景 (特別展示室)

# 能仁寺と黒田氏

期 間	平成3年4月20日(土)～6月16日(日)		
開館日数	50日		
入館者数	6,599人 (1日平均132.0人)		
総費用	1,170,742円 (入館者1人あたり177.4円)		
(内訳)	印刷費	358,400	消耗品費 279,742
	写真関係費	34,200	報償費 13,500
	展示委託料	249,000	賃 金 185,900
	資料借料	50,000	

## 1 趣 旨

飯能の発展、特に市街地部の発展を歴史の上からみると、江戸時代にこの地を領していた上総久留里藩の藩主黒田氏に行き着くことになる。黒田氏の保護の下で市が栄え、街が発展してきたといえるからである。また、その菩提寺である能仁寺が飯能に与えた影響も大きい。

そこで、能仁寺所有の黒田氏関係の資料を中心とした特別展を企画し、市民に黒田氏の業績と飯能の発展に果たした役割を知ってもらい、今後の街づくりのための参考にしてほしいと考えた。

## 2 展示の構成

- (1) 飯能の発展と黒田氏
- (2) 初代領主・黒田直邦
- (3) 能仁寺の歴史

## 3 主な展示資料

黒田直邦木像、中山家勝木像、能仁寺住僧の乗駕籠、「将軍家御成ニ付諸事覚書」、黒田直純寄付状、『武州能仁寺記』、鶉の香炉、久留里城風景之図、能仁寺絵図など26点



展示風景 (展示ホール)

## 4 印刷物

- ポスター (B 2 版 4 色刷) 300部  
パンフレット (B 5 版 4 ページ 4 色刷) 3,000部

## 5 関連事業

### ◎歴史散歩「旧跡への招待」

日 時 平成3年5月12日(日)

午前9時30分～

講 師 岡野 達雄氏

(飯能市文化財保護審議委員)

コース 郷土館～泰州和尚碑～本郷大

六天青石塔婆(伝畠山重忠墓)

～善道寺～多峯主山 宝篋印

塔(伝常磐御前の墓)～多峯

主山頂上～雨乞いの池～天覧

山(十六羅漢・泰州廣基和尚

の墓)～能仁寺(久留里藩主歴代の墓・庭園)～郷土館

参加者 44人

### ◎れきし講演会「能仁寺と黒田氏」

日 時 平成3年6月9日(日) 午後1時30分～

講 師 坂口 和子氏(郷土館協議会委員)

会 場 当館学習研修室

参加者 60人



「旧跡への招待」

## 6 評価と課題

今回の特別展は多くの入館者があり、3,000部作ったパンフレットが足りなくなるほどだった。ただし、ゴールデンウィーク中に入館者数が全体の40%を占めており、季節的な要因も大きかったと思われる。

展示の内容に関しては、各コーナーの年表に写真や図など視覚的に訴えるものを盛り込んだことで、ふだんとりつきにくい年表を多くの人が見てくれたようだ。ただ、「文字が小さい」という指摘を受けたので、もう少し内容を凝縮して字数を少なくし、文字を大きくしたほうがよかったのだろうか。しかし、あまり文字が大きくても煩雑になってしまうため、大きさについては入館者の反応をもとに今後も検討を重ねていくべきであろう。



展示風景 (特別展示室)

# 絹は語る —飯能の絹織物—

期 間	平成3年10月15日(火)～12月15日(日)		
開館日数	54日		
入館者数	5,520人 (1日平均102.2人)		
総費用	985,912円 (入館者1人あたり178.6円)		
(内訳)	印刷費	457,320	消耗品費 268,660
	写真関係費	28,820	報償費 30,000
	資料借料	30,000	賃 金 171,112

## 1 趣 旨

江戸時代から明治、大正、昭和の前半まで盛んに行われていた養蚕と織物。最盛期にはほとんどの農家で養蚕を行い、街中には織物工場や絹の間屋が数多く見られた。織物は林業とともに飯能の地場産業として、この地方の経済の中心的役割を果たしていた。しかし、近年、養蚕農家は激減し、織物業は衰退の一途をたどっている。

最盛期のころの養蚕や織物業に対する人々の意気込み、生活の中での位置づけ、飯能経済の発展に果たした役割等を伝えるとともに、現状を紹介し、今後地場産業としての織物を発展、継承していく方策を考えるきっかけを与えたい。

## 2 展示の構成

- (1) 絹織物ができるまで
- (2) 織物の歴史
- (3) 養蚕
- (4) 製糸
- (5) 撚糸
- (6) 染色
- (7) 機屋
- (8) 機織り
- (9) 現在の織物



展示風景

## 3 主な展示資料

おしら講祠、蚕種貯蔵箱、まぶし織り機、足踏み糸引き、ふわり台、八丁撚糸機、緋板巻き、フネ、高機、座繰り、経台、引込み台、杼、切本帳、絹織物製品など29点

## 4 印刷物

ポスター (B 2版4色刷)	300部
パンフレット (B 5版8ページ一部4色刷)	3,000部

## 5 関連事業

### ◎講演会「飯能の絹織物」

日 時 平成3年11月3日（日）午後1時30分～  
 講 師 桑山 和子氏（郷土館協議会委員）  
 曾根 良平氏（曾根織物株式会社）  
 高山 平氏（株式会社高山織物工場）

会 場 当館学習研修室

参加者 23人

### ◎機織実演会

日 時 平成3年10月27日（日）・11月3日（日）・12月1日（日）・8日（日）・15日（日）の午後1時～3時

実演者 小熊 絢子氏

会 場 当館特別展示室



機織実演会

## 6 評価と課題

織物関係の展示は難しく、約3ヶ月の準備期間の多くが調査の時間に割かれてしまったため、展示を構成する段階で調査結果を十分に整理しきれなかったり、調査不足の点もあり、展示の意図が伝えきれなかった。さらに構想段階で計画していた、織物ができるまでの工程を説明するビデオや、織物業の現状を紹介するパネルができなかったため、見学者に対して展示の趣旨や目的を十分伝えることができなかったと思われる。

一方、特別展示室における機織りの実演会は好評だった。実演のような動きのあるものを展示に盛り込むことで、展示に変化がつけられ、また実演者と見学者が会話を交わすことで親しみも生まれてくる。

織物業は非常に厳しい状況にあり、従事する人もだんだん少なくなっている。早い時期に織物に関する調査に着手する必要がある。



タイトルパネル

# 写真にみる幕末・明治

期 間	平成4年4月21日(火)～6月21日(日)		
開館日数	53日		
入館者数	9,816人(1日平均185.2人)		
総費用	2,490,956円(入館者1人あたり253.8円)		
(内訳)	印刷費	455,260	資料借料 300,000
	写真関係費	20,365	消耗品費 409,181
	展示委託料	831,990	報償費 112,060
	資料運搬費	206,000	賃 金 126,100
	資料保険代	30,000	

## 1 趣 旨

日本に写真の技術が伝来したのは嘉永年間のことである。幕末の動乱期中、写真は急速に広まり、人物や事件、風俗、世相など多くの写真が撮られ、現代に伝えられている。これらの資料によって我々は生き生きとした当時の様子を目の当たりにすることができる。今回は石黒コレクションの中から主に幕末・明治の世相に焦点をあて、飯能という枠を越えて、我々日本人の祖先の暮らしぶりを視覚に訴えることによって、理解してもらうことを目的とするものである。庶民の生活にこだわったのは、歴史の主体者が庶民であることを伝えたいという意図があったからである。

## 2 展示の構成

### (1) プロローグ(導入)

- ①幕末・明治のころ
- ②平成から幕末へ

### (2) 幕末・明治の世相

- ①くらし
- ②まち
- ③むら
- ④たび

その他…〈真実を写さない写真〉

### (3) 写真の移り変わり

### (4) エピローグ



展示風景(展示ホール)

## 3 主な展示資料

「剣道着姿の高杉晋作」(上野彦馬撮影)、「明治5年のお茶の水」、「武士と従者」、「髪結び床」、「鉄道馬車の行く銀座」、「挽き臼」(F.ベアト撮影)、「山駕籠に乗った外人を囲む駕籠かき」(F.ベアト撮影)、銀板写真、横浜写真アルバム、「明治の東京パノラマ写真」など119点

#### 4 印刷物

ポスター（B2版2色刷）	300部
パンフレット（B5版8ページ一部4色刷）	4,000部

#### 5 関連事業

##### ◎講演会「日本写真事始」

日時	平成4年5月17日（日）午後1時30分～
講師	石黒 敬章氏（石黒コレクション保存会）
会場	当館学習研修室
参加者	65人

#### 6 評価と課題

今回の特別展は、展示資料のすべてを借用し、館蔵資料をいっさい使わない初めての企画であった。そのため館側が借用資料の傾向や性格を把握した上で、いかに独自の構成を考え、それを所蔵者に理解してもらうかということが問題となるが、石黒氏の協力で館側の意図は良く表現できたと思われる。また、今回は郷土館協議会委員の滝鍊太郎氏をはじめ、友の会会員など多くの人が運営に関わったため、いろいろなアイデアが生まれ今までとは違った層の来館があった。これが以後、そのテーマに詳しい人や市民とともに「企画委員会」を組織して特別展の企画を進めるきっかけとなった。

その他、展示については照明が暗い、額のガラスに照明が反射して見づらいなどライティングに関する意見が多く、次回以降の課題となった。



展示風景（特別展示室）



郷土館友の会主催事業「明治写真館」

# 絵図からの伝言

期 間	平成4年10月15日(木)～12月15日(火)			
開館日数	52日			
入館者数	4,915人 (1日平均94.5人)			
総費用	1,064,327円 (入館者1人あたり216.5円)			
(内訳)	印刷費	387,000	報償費	53,600
	写真関係費	93,895	賃 金	156,200
	展示委託料	182,207	旅 費	4,700
	消耗品費	186,725		

展  
示

## 1 趣 旨

近年飯能にも開発の波が押し寄せ、その結果自然の景観はもとより、村や町の様子も急速に変化してきている。そうした中で近世以降に描かれ伝世している絵図や地籍図などの古地図は、失われてしまった歴史的景観を今に伝えるものである。これらの資料は郷土の歴史を探る上でも貴重なものであり、過去から現代に至るまでの私たちの先祖の歩みを視覚的に表しているといえる。その存在を知ってもらおうと同時に、現代と当時の比較を通して、飯能の将来のあるべき姿を考えるきっかけとする。

## 2 展示の構成

- (1) 絵図とは？ (総論展示)
- (2) いろいろな絵図
  - ア、天保13年飯能村絵図
  - イ、元文4年秣場争論裁許絵図
  - ウ、岩沢村御普請場絵図
  - エ、天明6年上下岩沢村御普請場絵図
  - オ、宝永4年真能寺村絵図
- (3) 旅・たびの思い出

## 3 主な展示資料

天保13年飯能村絵図、宝永4年真能寺村絵図、元文4年秣場争論裁許絵図、寛政3年御普請場絵図、明治27年大日本道中独案内細見図、昭和4年箱根名所図会など28点

## 4 印刷物

ポスター (B2版4色刷)	300部
パンフレット (B5版4ページ4色刷)	4,000部



ポスター

## 5 関連事業

◎講演会「絵地図—その読みかた見かた考えかた—」

日 時 平成4年12月6日(日)

午後1時30分～

講 師 白井 哲哉氏(埼玉県文化財保護課)

会 場 当館学習研修室

参加者 58人



講演会「絵地図」

## 6 企画委員

大野邦弘氏・坂口和子氏（以上郷土館協議会委員）、  
島田弘一氏（郷土館友の会役員）

## 7 評価と課題

今回は絵図がもっている当時の様々な情報を引き出し、提示することによって江戸時代の景観をイメージしてもらうことを目的としている。飯能村絵図では、絵図が示す細かい描写の差が意味する景観の違いを示すことができたと思うが、その他は、資料の調査不足から、それがもっている情報を十分に引き出すことができなかった。また、絵図はそれぞれにいろいろな目的をもって作成されたものであるだけに、展示の内容としては散漫になりがちである。そうならないためには、絵図が表しているその歴史的景観の大切さやそれが現在そして将来の飯能市においていかなる意味をもつのかを示す必要があったが、それができなかった。その結果、単に絵図という過去の一断面を知ることで資料の存在を提示しただけになってしまった。



展示風景

## 【商(あきない) —飯能の広告展—

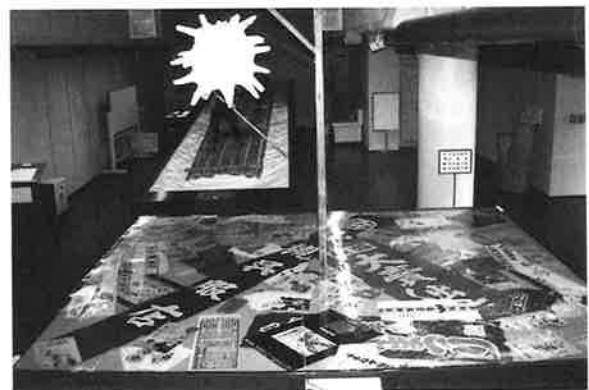
期 間	平成5年4月20日(火)～6月20日(日)			
開館日数	52日			
入館者数	7,213人(1日平均138.7人)			
総費用	1,487,551円(入館者1人あたり206.2円)			
(内訳)	印刷費	460,410	報償費	171,400
	写真関係費	33,800	賃金	187,000
	展示委託料	322,709	旅費	1,050
	消耗品費	311,182		

### 1 趣旨

飯能の街は、江戸時代以来平地と山地の産物が交換された市(「縄市」と呼ばれていた)をもとに発展してきた。市には西川材や絹織物などを扱った商人を始め、様々な生活物資を商う商人とそれを求める人々が集まり賑わっていたと思われる。街の発展に飯能商人が果たした役割は大きく、その心意気的一端は明治41年にそびえ立っていた風車式広告塔に見ることができる。昭和29年に市制が施行されてから40年目にあたる今年(平成5年)を機に、引札やちらしなどの広告を題材として、商人たちの活動の様子と街の発展の歴史をふりかえると同時に、これからの街の将来像を考えるきっかけとする。なお広告の対象は残存している資料の制約から明治15年の町制施行から市制施行までの約70年間とする。

### 2 展示の構成

- (1) 導入展示(看板・金平糖の形をした看板等)
- (2) 広告の歴史
- (3) 引札
  - ① 店舗
  - ② 福の神
  - ③ 世相・風俗
  - ④ 物語
  - ⑤ 吉祥絵
- (4) 市街地の発展
- (5) その他の広告
  - ① 包紙・風呂敷・小物
  - ② 貧乏徳利・暖簾・掛軸
  - ③ うちわ
  - ④ マッチのレットル
  - ⑤ 手拭い・半纏
- (6) 飯能町の商店街(6月1日～20日)



導入展示

### 3 主な展示資料

飯能の商店の看板、引札、ちらし、紙袋、包紙、風呂敷、屋号入貧乏徳利、マッチのレットル、うちわ、半纏、飯能町商店街の双六、飯能町の航空写真、商店街の写真(昭和20~40年代)など122点

### 4 印刷物

ポスター (B 2版 5色刷) 500部  
パンフレット (B 5版 4ページ 5色刷) 4,000部

### 5 関連事業

◎講演会「広告を10倍楽しむ方法」

日時 平成5年5月16日(日)  
午後1時30分~

講師 小沢 正光氏  
(株)博報堂クリエイティブディレクター

会場 当館学習研修室

参加者 36人



講演会「広告を10倍楽しむ方法」

### 6 企画委員

桑山和子氏・杉田多可雄氏・滝鍊太郎氏(以上郷土館協議会委員)、中里好江氏、吉野勲氏(以上郷土館友の会役員)、岡崎孝氏

### 7 評価と課題

今回は、昔の商店街の写真や様々な広告類の収集にあたって、大通り、銀座通り商店街の方々のご協力をいただくことができた。また企画委員会も市民の立場で見たいもの、知りたいことなどを提案してくれるという理想の姿に近い形で機能していたと考えられ、今までになく多くの市民が参加して特別展が開催できたと思われる。さらには若い人たちを中心に商店街の活性化に向けての活動が始められた時期とも重なり、この展示会がわずかながら地元の商店街にスポットをあてるきっかけになったのではないだろうか。

しかし、メッセージを伝えるための表現方法としては、賑やかな商店の雰囲気を表すことが出来ず、また来館者を飽きさせない工夫も不十分であった。もっと来館者を楽しませるしかけができたはずである。これらは次回以降の課題となった。



展示風景(展示ホール)

# 【碑(いしぶみ) —連帯のエネルギー—

期 間	平成5年10月15日(金)～12月15日(水)			
開館日数	52日			
入館者数	5,333人(1日平均102.6人)			
総費用	1,153,096円(入館者1人あたり216.2円)			
(内訳)	印刷費	180,044	報償費	158,950
	写真関係費	96,590	賃金	163,300
	展示委託料	261,000	旅費	1,650
	消耗品費	291,562		

## 1 趣旨

記念碑類は近世後期に建てられたものもあるが、その多くは明治以降の建立である。これらの石碑からは当時の時代背景や庶民の生活などがわかり、近年歴史資料としての価値が認められるようになってきた。また碑に刻まれた多くの人々の名前は、それを建てた地域住民の団結の強さを物語っている。これら記念碑類から地域の新たな歴史を掘り起こすと同時に、そのために集約された我々市民の祖先のエネルギーを感じてもらうことを目的とする。あわせて拓本の美しさを表現し、その良さを伝える。



展示風景

## 2 展示の構成

- (1) いしぶみ(総論展示)
- (2) 連帯のエネルギー
- (3) 拓本のとりかた
- (4) (各論展示)
  - ① 顕彰碑
  - ② 記念碑
  - ③ 慰霊碑
  - ④ 産業記念碑

## 3 主な展示資料

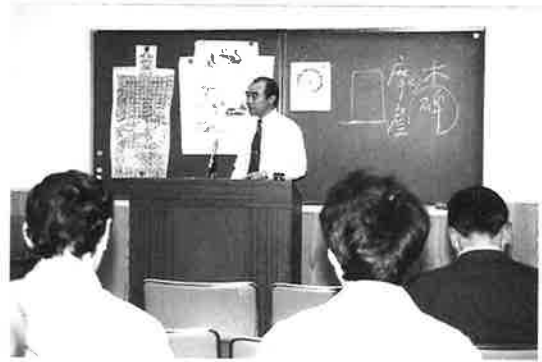
第一小学校建設記念碑、町村合併記念碑、忠魂碑並戦役記念碑、揚庵先生碑、精道翁碑、小川香魚の碑、阿須山新道記念碑、忠魂碑など23点(いずれも拓本)

## 4 印刷物

ポスター(B2版1色刷)	300部
パンフレット(B5版16ページ1色刷)	4,000部

## 5 関連事業

- ◎講演会「碑 一連帯のエネルギー」  
日 時 平成5年11月21日(日)  
午後2時～  
講 師 大野 邦弘氏(郷土館協議会委員)  
「碑に刻まれた文字」  
坂口 和子氏(郷土館協議会委員)  
「碑の地域分布とその傾向」  
会 場 当館学習研修室  
参加者 31人



講演会「碑」

## 6 企画委員

大野邦弘氏・坂口和子氏(郷土館協議会委員)、金子仙太郎氏(飯能市文化財保護審議委員)、島田弘一氏(郷土館友の会役員)

## 7 評価と課題

碑や拓本といったものは歴史情報としてはおもしろいが、見栄えのするものではない。それだけに、その魅力や資料としてのおもしろさを一般の人々がとりつきやすい切り口から、わかりやすく表現するのは二重の工夫と手間がかかる。こういう資料をとりあげるときこそ、綿密な資料の調査検討と周到な準備が必要なのは当然であるが、館の側で十分資料をかみ砕くことができなかつたために、碑の各論展示では歴史資料としてのおもしろさを引き出し、来館者へ訴えかけることが希薄なものになってしまった。そのため、展示資料としては難しい素材であったこととあいまって、今回の展示は市民の反響も従来ほど多く聞こえてこなかつたように感じる。

しかし、一方で総論展示のコーナーで市内の碑のあり方から地域の歴史的な特徴をある程度表現できたこと、採拓という歴史資料を保存する方法を市民に理解してもらうよい機会を提供できたことは評価できると思う。

## —幕末・明治の幻陶— 飯能焼

期 間	平成6年4月20日(水)～7月3日(日)	
開館日数	63日	
入館者数	12,072人 (1日平均191.6人)	
総費用	6,675,771円 (入館者1人あたり553.0円)	
(内訳)	印刷費 4,762,720	資料借料 203,000
	写真関係費 209,360	消耗品費 243,131
	展示委託料 903,240	報償費 184,900
	資料運搬費 44,290	賃金 39,100
	資料保険代 60,570	旅費 25,460

## 1 趣 旨

飯能焼は県内でも数少ない近世民窯のひとつである。しかし近年、江戸時代以降の遺跡調査数の増加によって近世陶磁器の解明を望む声が高まってきている。また、この優れたやきものを生み出したこの飯能でも、その資料が散逸しかねない状況に変わりつつある。そこで、今回の特別展では伝世(完形)資料や窯跡からの陶片を一同に展示することにより、従来の問題点を整理するとともに、これを契機として飯能焼研究のための基礎資料を作成し、その出発点として位置づけるものである。

## 2 展示の構成

- (1) 飯能焼研究の現状(導入)
- (2) (本論展示)
  - ① 飯能焼(完形資料)
  - ② 双木佐七関係資料
- (3) 飯能市内の窯跡
  - ① 原窯表採資料
  - ② 矢風窯出土資料
  - ③ 白子窯表採資料
  - ④ 河原毛久保窯表採資料
- (4) 飯能周辺の窯跡
  - ① 熊井焼表採資料
  - ② 山王焼表採資料
- (5) 飯能焼の陶工



展示風景

## 3 主な展示資料

松樹文德利、瓢形小鉢、波千鳥文四方片口、桃形小鉢、氷花文德利、灰釉火入、環状火爛德利、草葉文水注、梅樹文壺、梅花文下地差、瓢文德利、屋号入德利(双本)、町名入小皿(原町)、おろし皿、麦文小皿、蓋、双木新平の人別送状、腰塚小四郎の人別送状など166点

#### 4 印刷物

ポスター（B2版4色刷）	500部
パンフレット（B5版8ページ4色刷）	4,000部
展示図録（B5版120ページ4色刷）	3,000部

#### 5 関連事業

##### ◎飯能焼シンポジウム

日時	平成6年5月15日(日) 午後1時30分～
発表者	双木 利夫氏(市指定文化財双木本家飯能焼コレクション所有者) 師岡 貞雄氏(飯能焼研究家) 田中 順三氏(飯能焼研究家)
司会	井上 峰次氏(郷土館協議会会長)
会場	当館学習研修室
参加者	43人



飯能焼シンポジウム

##### ☆郷土館友の会共催事業「筒描体験学習会」

日時	平成6年6月19日(日) ①午前9時～ ②午後1時30分～
講師	岸 道生氏(破草鞋窯)
会場	当館学習研修室
参加者	①30人 ②26人



筒描体験学習会

#### 6 企画委員

井上峰次氏・桑山和子氏・滝鍊太郎氏（以上郷土館協議会委員）、岸道生氏（郷土館友の会役員）、岡崎孝氏、村木優氏

#### 7 評価と課題

飯能焼は飯能と名の付く数少ない文化財であり、飯能の歴史には欠かすことのできない重大テーマのひとつである。しかしながら、窯跡の発掘調査も行われておらずまた資料も少ないため、謎の多いやきものでもある。したがって今回の展示も資料の散逸を防ぐ意味で、ここで今までの成果をまとめておこうという意図で始まったものである。実際に市民の関心も高く、また「幻のやきもの」ということで多くのやきものファンが来館し、さまざまな情報を今回の展示をきっかけに集めることができた。このように市民から研究者にいたるまで幅広く関心を持たれた今回の展示会は、研究史の整理と新たな情報の収集という当初の目的も達成でき成功であったといえる。しかし、これが最終目標ではない。この成果をいかに今後生かしていくかが問題なのである。集積された情報の整理を行い、それを公開していきながら市民とともに飯能焼を考えていくことこそ大事であると考え。飯能焼研究をとりまく環境は少しずつであるが整ってきつつあるといえよう。

期 間	平成6年10月15日(土)～12月15日(木)		
開館日数	51日		
入館者数	10,486人 (1日平均205.6人)		
総費用	4,915,774円 (入館者1人あたり468.8円)		
(内訳)	印刷費 3,630,000	消耗品費 111,309	
	写真関係費 187,365	報償費 74,900	
	展示委託料 317,000	賃金 81,600	
	資料保険代 67,600	旅費 123,100	
	資料借料 235,000	事務通信費 87,900	

## 1 趣 旨

愛知県瀬戸市では、第一次世界大戦をきっかけにマイセンにかわる新たな供給地として、磁器人形(ノベルティ)の生産が開始された。その細やかな描写、造形の美しさ、そしてそれを可能にした技術水準は、それが瀬戸という一地域にとどまらず日本を代表する美術品であるという評価を十分に裏付けるものである。しかし、主に輸出品であったため、日本ではこの素晴らしい人形の存在すらほとんど知られていない。今回の展示はこの造形美を多くの人に紹介し、鑑賞してもらうことを目的とする。

## 2 展示の構成

- (1) ノベルティの歴史(導入)
- (2) ノベルティの製造工程
- (3) (本論展示) …磁器人形を展示
  - 補足解説①ノベルティの生産
  - 補足解説②デザインの模倣
- (4) ヨーロッパの磁器人形



## 3 主な展示資料

「聖母マリア」、「貴婦人」、「老婆と少女」、「リングを持つ少年・果物を持つ少女」(一対)「医者」シリーズ、「ダンス」、レース人形、人形付コンポート、人形付花生、人形付燭台、「天使のコーラス隊」(ドイツマイセン窯製)、「スリーピングビューティ」石膏型など161点



展示風景

#### 4 印刷物

ポスター（B 2版5色刷）	500部
ちらし（B 5版2ページ5色刷）	5,000部
展示図録（B 5版110ページ4色刷）	2,000部

#### 5 関連事業

◎講演会「瀬戸・磁器人形 ー最盛期の状況ー」

日時	平成6年11月13日(日) 午後1時30分～
講師	星野 登氏
会場	当館学習研修室
参加者	23人

#### 6 企画委員

滝鍊太郎氏・浜中勇氏（郷土館協議会委員）

#### 7 評価と課題

今回の展示会は1日平均で200人以上の入館者があり、中でも女性の姿が多く見られた。口コミによって情報を得て来館する人も多かったようで今までにない客層に存在をアピールするよい機会となった。また精巧な人形の出来やその表情に感動したようで、今まで評価されていなかった資料を取り上げ、新たな価値観を創出することができたともいえる。

その一方で、製作技術についてはそれが生み出されるまでの苦労や高度さを十分表現することができなかった。今回のテーマは地元瀬戸以外にはほとんど知られていないものであっただけに、イメージしにくい製作工程を予備知識のない人にも理解できるようにするためには、解説パネルや展示方法にも工夫が必要であった。いかなる背景をもつ人たちをターゲットにしているかを、常に認識しながら準備を進めていくことの大切さを教えられた展示会であった。



講演会後の展示説明会

# 「いろいろとにぎわいのとき」—飯能の民俗芸能・屋台囃子と獅子舞—

期 間	平成7年4月20日(木)～6月20日(火)			
開館日数	52日			
入館者数	7,245人 (1日平均139.3人)			
総費用	1,944,211円 (入館者1人あたり268.4円)			
(内訳)	印刷費	704,314	消耗品費	108,281
	写真関係費	85,001	報償費	173,550
	展示委託料	526,635	賃 金	72,000
	資料借料	223,000	事務通信費	51,430

## 展 示

### 1 趣 旨

飯能市内には、多くの民俗芸能が残っている。特に獅子舞はその数が多いとされている埼玉県全体から見ても、大変多く残っている。このような民俗芸能継承の背景には、「ムラ」の存在があった。また、その「ムラ」の子供達にとっては、祭りに参加するという事は大人として認められる第一歩であったようである。

このように「ムラ」の中で継承されてきた民俗芸能だが、現在の多くの市民はその存在さえ知らないようである。今回の展示は、中でも一番なじみのある囃子と獅子舞を取り上げ、それを紹介することで民俗芸能に対する興味を持ってもらうこと、昔の「ムラ」の形態を知ることで、今後の地域のあり方を考えるきっかけとなることを目的とする。

### 2 展示の構成

- (1) 総論
  - ①県内の民俗芸能の動向と飯能の動向
  - ②飯能の民俗芸能の分布図
- (2) お囃子
  - ①囃子の流れ
  - ②屋台囃子
  - ③囃子の形態
- (3) 獅子舞～飯能諏訪八幡神社獅子舞を中心に～
  - ①獅子舞の系統・市内の分布
  - ②頭の違い
- (4) 実演・映像コーナー



展示風景

### 3 主な展示資料

神田囃子大橋流ジゴト(二丁目親和会)、神田囃子若狭流ジゴト(柳原囃子保存会)、足踊りの面・衣装、外道・ひょっとこ・三番叟・天狐などの面、獅子頭、ささらっこの花笠、ささら、腰太鼓、うちわ(ハエオイ)など57点

#### 4 印刷物

ポスター (B2版4色刷)	300部
パンフレット (B5版8ページ4色刷)	4,000部

#### 5 関連事業

##### ◎講演会「青梅市の獅子舞 ―風流獅子舞の見方と魅力―」

日時	平成7年6月11日(日) 午後2時～
講師	石川 博司氏(青梅市文化財保護審議委員)
会場	当館学習研修室
参加者	24人

##### ◎お囃子実演会 午後2時～

会場	当館展示ホール
4/22(土)	前田囃子保存会
4/23(日)	双柳囃子連保存会
5/14(日)	二丁目親和会
5/21(日)	本郷囃子連
5/28(日)	柳原囃子保存会
6/4(日)	宮本町囃子連
6/18(日)	三丁目共鳴会

##### ◎流派聞き比べ

4/29(土)	一丁目囃子保存会 (大橋流) 原町囃子連 (若狭流)
5/7(日)	二丁目親和会 (大橋流) 直竹囃子保存会 (黒沢囃子)



お囃子実演会



流派聞き比べ

#### 6 企画委員

井上峰次氏 (郷土館協議会会長)、小槻成克氏 (飯能市郷土芸能保存会)、市野彰俊氏

#### 7 評価と課題

民俗行事というものは1年でサイクルがまわっているものだけに、展示を開催する目的をもって通年で調査する必要があるが、今回準備にそれだけかけられず、深く追究できなかった分、展示の内容が総花的なものになってしまった。また、今回の展示は実演会与セットで意味のあるものであっただけに、実演会の企画を行いながら展示の準備を行うには期間が短かすぎたようである。

しかし、市民に市内の民俗芸能を知ってもらおうという目的は達成できたのではないだろうか。日頃じっくり聞くことのできないお囃子を聞くことができたり、お面をじっくり見比べることができたりしたのは良かったという声も聞かれた。また囃子連を通じて今まで郷土館に足を運ばない人たちにその存在をアピールできたのも大きな収穫であった。

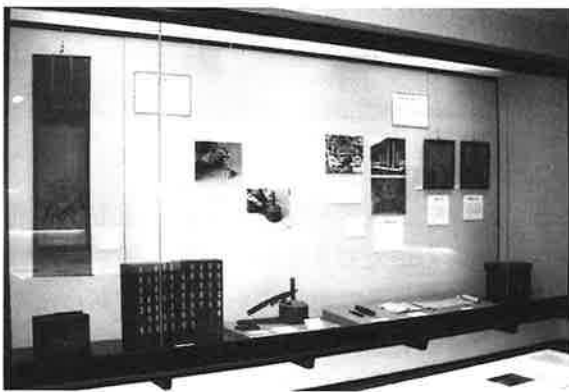
# 飯能の村医者 —幕末・明治の医療—

期 間	平成7年10月15日(日)～12月3日(日)		
開館日数	41日		
入館者数	5,653人 (1日平均137.9人)		
総費用	1,879,363円 (入館者1人あたり332.5円)		
(内訳)	印刷費 1,181,410	報償費 115,800	
	写真関係費 67,115	賃 金 91,200	
	展示委託料 78,280	旅 費 8,350	
	資料借料 78,000	事務通信費 87,070	
	消耗品費 172,138		

## 展 示

### 1 趣 旨

現在の飯能市には幕末の時点で50を超える村があり、山間に位置している村も多い。この時代、在方に住む人々が病にかかった場合には、多くは伝統的な家庭療法やまじない・呪術などによってそれを乗り越えようとしていた。しかし、この山あいの村々にも医療に携っていた村医者が少数ながら存在していた。幕末から明治中期にかけてのこれらの医療の様子を解明することにより、医療のあり方を考えるきっかけとする。



展示風景

### 2 展示の構成

- (1) 病への対処方法
- (2) 幕末・明治の医療
  - ①近世から近代の医学
  - ②在方における医者
- (3) 飯能の村医者
  - ①須田精道
  - ②山川家 (揚庵・真造)
  - ③栗原賢堂
  - ④岡部家 (一学・均平・静海)
  - ⑤野口養賢
  - ⑥吉田家 (美山・将監・玄斎)
  - ⑦双木家 (玄同・玄珉・康哉)

### 3 主な展示資料

八王寺の薬袋、飲食養生鑑、神農図、天保3年赤沢村宗門人別帳、山川揚庵書簡、『熱病覈原』、『熱病覈原』版木、岡部均平肖像画、和蘭全軀内外分合図、明治7年謝礼受納帳、埼玉県立医学  
校入学願、百味筆筭、膏薬切り、ランビキ、薬研など71点

#### 4 印刷物

ポスター(B 2版4色刷)	300部
パンフレット(B 5版8ページ4色刷)	4,000部
展示図録(B 5版20ページ一部4色刷)	1,000部

#### 5 関連事業

##### ◎講演会「日本最初の帝王切開術」

日 時	平成7年11月19日(日) 午後1時30分～
講 師	岡部 常高氏 (飯能市立双柳小学校長)
会 場	当館学習研修室
参加者	59人



講演会「日本最初の帝王切開術」

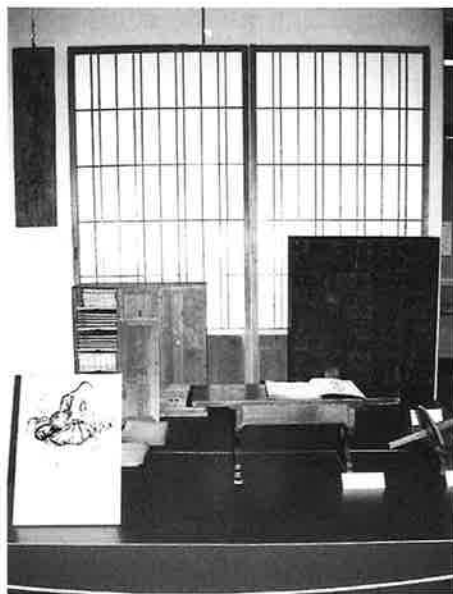
#### 6 企画委員

加藤義雄氏（郷土館協議会委員）、岡部常高氏（飯能市立双柳小学校長）、野口正元氏（郷土史家）

#### 7 評価と課題

飯能は帝王切開術が日本で初めて行われた地であることから、それをメインにした日本の医学史に重点を置いた内容にすることも可能であったが、そうではなく今回の展示では在方(村)における医療行為の実態というものに焦点を絞って構成した。その方が市民にとってもイメージしやすい展示会になると思ったからである。そのためか市民の関心も比較的高く、準備期間中でも見に行きたい、といってくれる人がいつもより多かった気がする。図録も展示内容そのものが地味だったわりにはよく売れたと思う。

しかし、今回の企画を始める際に目標としていた来館者が自分で触ったり考えたりできるものを展示に取り入れることはついにはできなかった。それは調査における最大の収穫である「和蘭全軀内外分合図」を使って内臓の位置を来館者に正しく置いてもらうというものであるが、時間的な制約からそれを形にすることができなかった。心残りな点である。そのほかに興味深い資料も多く発見されたが、逆に謎も深まった。今後これらをどのように調査しまとめていくかが課題となるだろう。展示終了後の追跡調査のありかたを検討する必要がある。



須田精道のコーナー

## その他の展示

郷土館では、特別展のほかにも文化財の普及・啓蒙や収蔵資料の紹介などを目的としていろいろな展示を行ってきた。ここではそれを紹介する。

### 平成2年度

#### ミニ特別展 飯能の指定文化財

期 間 平成2年6月7日(木)～7月22日(日)

開館日数 40日

入館者数 2,244人(1日平均56.1人)

#### 1 趣 旨

市内には65点もの指定文化財がある。しかし、その中には、一般に知られていないものも多いため、それらを写真パネルで紹介することとした。今回はミニ特別展の第1回目なので、指定文化財のうち県指定のものに限って展示した。国指定文化財は開館記念特別展で展示してあり、また、市指定文化財は次の機会に展示しようと考えたためである。

#### 2 内 容

市史編さん事業の際に作成した写真パネル(全紙大)によって、県指定の文化財を展示した。会場は間仕切りパネルで特別展示室を2/3に仕切って使用した。展示点数は20点である。

#### ミニ特別展 何に使われた道具でしょう

期 間 平成2年9月14日(金)～10月7日(日)

開館日数 21日

入館者数 1,333人(1日平均63.5人)

#### 1 趣 旨

郷土館には寄贈された民具が多数あるが、展示してあるのはそのほんの一部にすぎない。そのため、寄贈品をもっと紹介するために、収蔵品展をやったらどうかという意見が聞かれるようになった。しかし、単に資料を並べただけの収蔵品展では、学習効果はあまり期待できない。そこで思い付いたのが、民具を展示し、それが何に使われたものかを入館者に考えてもらうクイズ形式の展示である。これにはクイズという遊びの要素を展示に加えられるだけでなく、入館者が答えを見つけるために資料をよく観察し、解答を知ることによって道具に込められた先人たちの知恵や工夫を発見できるという学習効果も期待できる。

#### 2 内 容

特別展示室の2/3を使い、唐箕・麦打ち台・繭の乾燥箱・冷蔵庫・田の草取り・田ならし・蠅取り器・糸とり座繰り・火のし・麦撒き器・ぶったいの11点を展示し、それぞれが何に使われたものかを考えてもらう。資料のそばには観察するポイントやヒントを記した解説パネルを置き、解答は事務室で渡す形を取った。また、手にとって資料を観察できるように、すべてオープン展示とした。

## 平成3年度

### ミニ展 ひなまつり

期 間 平成3年1月21日(火)～3月10日(火)

開館日数 43日

入館者数 3,567人(1日平均83.0人)

#### 1 趣 旨

平成3年2月5日から3月8日まで開催された特別展「ひなまつり」はたいへん好評であった。ひな人形は春の到来を予感させる、明るい雰囲気をもつ展示資料であり、来館者からも今年はやらないのか、という声も出始めていた。それに応えるため、昨年よりやや規模を縮小した形ではあるがミニ展として開催することになった。今回は年中行事を紹介する「季節展示」のひとつとして位置づけ、ひな祭りの雰囲気を味わってもらうことを目的としている。

#### 2 内 容

享保雛・御殿雛・座り雛・「八重垣姫」などを特別展示室に展示した。ひな祭りの華やかな雰囲気を出すことを目的としたので、展示資料は見栄えのするものを中心に選択した。

## 平成4年度

### 埋蔵文化財出土品展 掘りおこせ！ 古代からのメッセージ I

期 間 平成4年8月8日(土)～8月30日(日)

開館日数 20日

入館者数 1,626人(1日平均81.3人)



#### 1 趣 旨

市内各地で行っている発掘調査から地域の歴史が少しずつ解明されつつある。特に文字による記録のない時代の様子は発掘調査でしか解明できない。それは古代からのメッセージを見つける作業ともいえよう。この発掘調査や出土品の整理作業の方法を紹介し、遺跡からどのように歴史を読みとるかを伝える。

#### 2 内 容

最初に遺跡をどうやって見つけたか、なぜ発掘調査をしなくてはならないかをパネルで説明した。次に発掘調査と出土品の整理作業の手順を、実際に使用している道具を用いて臨場感あふれるように再現した。最後に最近発掘された遺跡の出土品を展示した。

#### 3 印刷物

ポスター(A3版カラーコピー)

パンフレット(B5版8ページ) [市内印刷]

#### 4 関連事業

◎土器の復元体験

日 時 ①平成4年8月19日(水) 午後1時30分～

②平成4年8月23日(日) 午前10時～

講 師 飯能市教育委員会生涯学習課埋蔵文化財担当職員

会 場 当館学習研修室

参加者 ①30人 ②31人

◎学習会

日 時 平成4年8月23日(日) 午後1時30分～

講 師 飯能市教育委員会生涯学習課埋蔵文化財担当職員

会 場 当館学習研修室

参加者 22人

平成5年度

ミニ展  
教科書

期 間 平成5年7月1日(木)～7月25日(日)

開館日数 22日

入館者数 1,935人(1日平均88.0人)



1 趣 旨

明治5(1872)年に学制が頒布されてから120年、教育も大きな変化を遂げてきたが、教科書の果たしてきた役割ははかりしれない。また、教科書にはその当時の社会情勢が色濃く反映している。そこで教科書を中心に、そのときどきの教育やその背景をたどることを目的とする。

2 内 容

教科書を江戸時代、明治初期、明治後期から昭和初期、現在と時代を追って展示するとともに、価値観の激変という歴史の1ページをもっとも強烈に示す墨塗り教科書も取り上げ、教科書の果たしてきた役割を示す。また、「テニトルコーナー」として石盤や紙盤、筆箱といった昔の文房具や教科書をオープン展示し、来館者が手にとって見るようにした。

3 出版物

パンフレット(B5版6ページ) [庁内印刷]

埋蔵文化財出土品展

掘りおこせ! 古代からのメッセージⅡ

期 間 平成5年8月3日(火)～8月31日(火)

開館日数 25日

入館者数 2,660人(1日平均106.4人)

1 趣 旨

最近発掘された遺跡および室内での整理、調査が終了した遺跡を中心にその成果を伝えることを目的とする。単に出土品を展示するだけでなく、調査の結果わかったことや、それが飯能の歴史にとってどのような意味があるのかなどもできる限り紹介するように努めた。

## 2 内 容

発掘調査された遺跡から7つを選び、出土品、パネル等を展示した。特に張摩久保遺跡第22次調査で発見された平安時代の貨幣「隆平永宝」は県内でも出土例がほとんどなく、メインの展示品とした。なお、解説は新聞記事風に構成してみた。

## 3 印刷物

ポスター(A3版カラーコピー)

パンフレット「発掘新聞」(B4版4ページ) [庁内印刷]

## 平成6年度

### ミニ展

### 女性雑誌 —表紙絵と目次—

期 間 平成6年7月8日(金)~7月31日(日)

開館日数 22日

入館者数 2,606人(1日平均118.5人)

### 1 趣 旨

郷土館の収蔵資料には、民俗資料や古文書などのほかに書籍類もあるが、その中でも特に雑誌類にはそれが出版された時代の世相が表されている。特に、戦後の女性の社会進出の目覚ましきはこれらの雑誌の表紙を飾る女性の生き生きとした姿に見ることができる。また、その表紙絵は伊東深水、藤田嗣治といったのちに大御所となった画家が描いており、その意味でもみどころあふれるものであるといえる。そこで、女性雑誌の表紙や目次から戦後の社会の変化を感じてもらうことを目的とする。

### 2 内 容

女性雑誌の表紙を実物資料で、目次はコピーをして展示した。

### 埋蔵文化財出土品展

### 掘りおこせ！ 古代からのメッセージⅢ

期 間 平成6年8月9日(火)~9月11日(日)

開館日数 30日

入館者数 3,832人(1日平均127.7人)

### 1 趣 旨

大字岩沢にある加能里遺跡は市内でも最大級の縄文時代集落跡で、これまでに27次にわたる発掘調査が実施されている。この加能里遺跡での発掘成果を展示し、それにより解明されつつある岩沢地区の原始の様子を紹介する。

### 2 内 容

最初にこれまでの調査の様子をパネルで紹介し、次に1軒の住居から出土した千点以上の土器の破片をすべて展示した。これらは復元する前の状態であり他ではあまり展示することがない。最後に復元し終わった49点の土器や石器などを展示し、解説文のかわりに「探検ボード」というクイズ形式のパネルを置いた。これはただ漠然と土器を見るのではなく、問題を一つずつ解いていくうちに土器の



見方や特徴がひととおりにわかるように配慮したものである。

### 3 印刷物

ポスター(B 2 版 1 色) 200部  
パンフレット(B 5 版 4 ページ)  
展示概要書(B 5 版 2 ページ) [いずれも市内印刷]

### 4 関連事業

◎スライド映写会と展示説明会

日 時 平成6年8月21日(日) 午後1時30分～  
講 師 飯能市教育委員会生涯学習課埋蔵文化財担当職員  
会 場 当館学習研修室  
参加者 33人

飯能市指定文化財

## 双木本家飯能焼コレクション展 I

期 間 平成7年3月11日(土)～3月31日(金)  
開館日数 17日  
入館者数 1,417人(1日平均83.4人)

### 1 趣 旨

飯能焼は「飯能」と冠のついた数少ない文化財である。それにもかかわらず開館以来、常設展示における展示スペースの少なさについては市民はもちろん、市外の来館者からも不満の声が寄せられていた。また、近年の近世考古学の発掘事例の増加や平成6年春に開催された「飯能焼」展により、飯能焼もさらに注目されだしている。そこで、飯能焼の伝世資料のほとんどを占め、かつ飯能市指定文化財になっている双木本家の飯能焼コレクションを特別展の合間に展示することにより、常設展示を補い来館者の期待に応えるとともに、飯能市郷土館を特徴づけるテーマ展示として位置づけることにした。

### 2 内 容

双木本家飯能焼コレクションは全部で200点以上を数え、そのすべてを一度に展示することは不可能である。そこで、梅樹文壺や松樹文徳利、秋草文小皿、梅花文下地差などの優品は毎回展示することとし、残り半分はその回ごとに新しいものを展示することにした。こうすることにより来館者に常に新しい資料を見ていただくことができる。今回は35点展示した。

## 平成7年度

戦後50周年特別企画展

## 戦時下の生活

期 間 平成7年8月8日(火)～8月31日(木)  
開館日数 21日  
入館者数 3,919人(1日平均186.6人)



## 1 趣 旨

太平洋戦争が敗戦という結果とともに終結して50年の歳月が経過した。多くの人たちが犠牲となり、苦痛に耐え、悲惨な思いをし、再びあのようなことがおこらぬよう誰もが願ったあのときの決意は、50年という歳月とともに風化しつつある。それを防ぎ、あの日のことを子々孫々まで語り継いでいくためのきっかけとして、飯能の人たちがどのような生活をしてきたかを展示する。

## 2 内 容

飯能における戦時下の生活の様子を表すため、「教科書」、「子どものあそび」、「銃後の守り」、「出征」の四つのコーナーに分けて展示し、さらに「ゲートルを巻いてみよう」、「防空頭巾をかぶってみよう」といった「みようコーナー」と題した体験スペースを設けた。そのほか灯火管制用のランプやバッチなど全部で100点展示した。

## 3 印刷物

ちらし(B 5版)

パンフレット(B 5版 8 ページ) [いずれも庁内印刷]

### 飯能市指定文化財

### 双木本家飯能焼コレクション展Ⅱ

期 間 平成8年1月11日(木)～3月12日(火)

開館日数 53日

入館者数 4,726人(1日平均89.2人)



## 1 趣 旨

飯能焼は「飯能」と冠のついた数少ない貴重な文化財であり、本来的にそれは展示スペースの広さにも反映されているべきである。しかし、開館以来、常設展示における展示スペースの少なさについては従来より入館者から指摘を受けていた。また平成6年春に開催された「飯能焼」展以降、それについての問い合わせも増えてきている。こうした声に応えるため、市指定文化財である双木本家飯能焼コレクションを展示し、常設展示を補うと同時に飯能市郷土館を特徴づけるテーマ展示として位置づけるものである。今回はその2回目にあたる。

## 2 内 容

今回は梅樹文壺や松樹文徳利、秋草文小皿、梅花文下地差など毎回展示するもののほかに、新出のものとして双木本家飯能焼コレクション仮No 5～49までの中の15点の、あわせて35点展示した。

平成2年度

## 夏休み子ども歴史教室

**日時** 平成2年8月9日(木)・11日(土)・12日(日)  
いずれも午前9時30分～11時30分

**対象** 小学生高学年～中学生

**会場** 当館常設展示室・学習研修室

**参加者数** 9人

**指導者** 柳戸 信吾(当館学芸員)

### 1 目的

子どもたちに、郷土館の資料にふれながら歴史に関心や興味をもってもらうことを目的とする。

### 2 内容

8月9日「展示を見学してみよう」「大むかしの道具に触れてみよう」

「展示を見学してみよう」では常設展示室の各コーナーごとにクイズを作りそれを自由に解いてもらい、20分後に解説を加えながら答え合わせをした。

「大むかしの道具に触れてみよう」では縄文時代の石器や土器を自由に観察してもらい、その後用途や年代などの解説を行った。

8月10日「むかしの道具を使ってみよう」

足踏み脱穀機による脱穀と石臼による製粉の体験をしてもらい、後半は座繰りを使って繭から糸をとった。

8月12日「火をおこしてみよう」

原始時代の火起こしのうち、まいぎり法を体験してもらい、まいぎりも部材だけ用意しておき、紐の長さやおもりの位置などを工夫して組み立ててもらった。

## 体験学習会「十五夜の味 ーうどん・まんじゅう作りと十五夜ー」

**日時** 平成2年10月14日(日)  
午前9時30分～午後1時30分

**対象** 小学生高学年以上(親子での参加も可)

**会場** 当館学習研修室・休憩コーナー

**参加者数** 23人

**指導者** 内沼 須美氏

**補助員** 郷土館友の会会員、飯能市連合婦人会会員



### 1 目的

農作業の節目ごとに行われる年中行事は、単調になりがちな生活にリズムをつけるとともに、体を休め楽しみを見いだすといった生活の知恵から生まれたものだった。このような年中行事は急激な社会の変化の中で行われなくなってきているが、今回は十五夜、十三夜を体験してもらい、先人の思いを伝えることを目的とした。また、今の子どもたちには、自分たちで作ったものを食べる苦労や楽しさを伝え、食べ物を大切にする気持ちを養うことも目的とした。

## 2 内容

内沼須美氏がうどんづくりの手順を説明したあと、班に分かれて粉をこね、麺棒でのばし、できたうどんをゆでて、参加者全員で車座になって食べた。その後粉をといて団子を作り、ふかしてから十五夜の飾り付けをした。十五夜の様子やそれに込められた人々の思いを説明したあと、団子を食べた。最後には月が出たような演出も行った。

### 古文書講座「むかしの飯能を知ろう」

**日 時** 平成2年11月17日(土)・12月1日(土)  
8日(土)・15日(土)・22日(土)  
いずれも午後1時30分～3時

**対 象** 一般

**会 場** 当館学習研修室

**参加者数** 15人

**講 師** 浅見 徳男(当館館長)



#### 1 目的

江戸時代の人々が書いた文書を使って、当時のひとびとの心にふれ、あわせて飯能の歴史を探るための手段を身につける。

#### 2 内容

当館所蔵文書の中から、人別送状、石灰仕入証文、武州一揆関係史料などの基礎的なものを取りあげ、解説を加えながら参加者とともに読み進んだ。

## 平成3年度

### 夏休み子ども歴史教室

**日 時** 平成3年8月7日(水)・8日(木)・9日(金)  
いずれも午前9時30分～11時30分

**対 象** 小学生高学年

**会 場** 当館学習研修室

**参加者数** 32人

**指 導 者** 8月7日 内沼須美氏・小熊絢子氏  
浅井春恵氏・石井伴子氏・小沢恵子氏  
渡辺初江氏(いずれも郷土館友の会会員)

8月8日 浅井春恵氏・石井伴子氏  
渡辺初江氏(いずれも郷土館友の会会員)

柳戸信吾(当館学芸員)

8月9日 尾崎泰弘・柳戸信吾(当館学芸員)



#### 1 目的

今年は、明治から大正期ごろの一般的な農家の生活の一部を体験してもらうこととし、これを通し

て昔の生活の大変さ、楽しさ、喜び、生活に込められたひとびとの工夫を感じとってもらおうとした。学習の題材としてはいろいろな時代のものが設定可能だったが、家に帰ってからもおじいさんやおばあさんたちと当時の暮らしの様子を話し合うことができ、さらに深く学習できると考えて、この時代を選ぶことにした。また、体験の内容も参加者と同じ子どもの生活とすることにより、過去の生活をより具体的に実感できると考えた。

## 2 内容

8月7日「七夕飾りとゆでまんじゅうづくり」

1日目は「ハレ」の生活を体験してもらうことにした。8月7日はちょうど七夕の日にあたるのでこれを取り上げ、単調な日常生活(「ケ」の生活)との対比を説明し、七夕飾りを通して行事の意義やそこに込められた人々の思いを学んでもらうことにした。また七夕の日の代表的な食べ物(お供え物)であるゆでまんじゅうを作り「ハレ」の食事と「ケ」の食事の違い、自分で作った物を食べる楽しさ、喜びを感じてもらおうとした。

8月8日「むかしのくらし」

2日目は日常生活である「ケ」の生活を体験してもらった。現在の生活との違いを認識してもらうとともに、生活用具に込められた工夫を感じ取ってもらうことを目標とした。昔の家の様子として、行灯、ランプ、裸電球の明るさを実感してもらい、家の手伝いとして石臼による製粉、火のしによる布のしわのばし、水くみ、火起こしの四つを体験してもらった。

8月9日「むかしのあそび」

3日目はむかしのあそびの体験である。当時は身近にある材料を使い、道具を作り出して遊んでいたことが現在と大きく違う点なので、水鉄砲と竹とんぼ作りを体験してもらうことにした。子どもたちの遊びに対する工夫や知恵を伝えようとしたのである。

## 平成4年度

### 夏休み子ども歴史教室

- 日 時** 平成4年8月5日(水)・6日(木)・7日(金)  
いずれも午前9時30分～11時30分
- 対 象** 小学生高学年
- 会 場** 当館学習研修室
- 参加者数** 33人
- 指 導 者** 8月5日 山口 晋平氏  
(埼玉県立所沢北高校講師)  
8月6日 山川 清次氏  
(埼玉県立飯能技術専門校常任講師)  
8月7日 山川 清次氏(同上)



## 1 目的

飯能市域の7割は山地から成り、太古の昔から人々はその豊富な森林資源とともに生活してきた。また江戸時代以降は西川林業が生み出す富に飯能の経済が支えられていた。ところが、近年国産木材の不況、新住民の増加とともに飯能の歴史を支えてきた森林に対する意識が急速に低下している。そ

ここで、歴史における森と人間との関わりを身近なところから体験し、生活環境としても、また歴史的な景観としてもそれがかけがえのないことを知ってもらうことを目的とする。

## 2 内容

8月5日「大自然を探る」(自然観察)

1日目は自然の素晴らしさを体感することを目的とする。天覧山裏の谷田は自然がそのまま残り、野生の植物や昆虫などが今でも多く見られるところである。ここを舞台として、グループごとにあらかじめきめられた植物や昆虫を探してきて、観察日記を作製する。と同時にこうしたところが楽しい遊び場となることも感じてもらう。

8月6日「木にふれる」

日本の文化は木の文化と言われ、わたしたち日本人は森と深く関わってきた。その中でもっとも身近に、直接的に恩恵を感じられるのは木材である。木を使ってちりとり、本棚などを製作し木に触れ、加工することによってその大変さを体験してもらうとともに、その暖かみも理解してもらう。

8月7日「森林とみんなの暮らし」

木を切ったり、加工する専門の職業が生まれる以前、人々はそれぞれの木の特徴を熟知したうえで、その用途にあった木を選んで使っていた。そこで、今回は何種類かの木の表面を観察したり、触ったり、また実際にそれを切ったり、削ったりしながらその違いを体験してもらうとともに、3日間のまとめとして森の大切さについて再確認してもらう。

## 平成5年度

### 夏休み子ども歴史教室

- 日 時** 平成5年8月4日(水)・5日(木)・6日(金)  
いずれも午前9時30分～12時
- 対 象** 小学生高学年～中学1年生
- 会 場** 当館学習研修室
- 参加者数** 31人
- 指 導 者** 8月4日 岡野 達雄氏  
(飯能市文化財保護審議委員)  
8月5日 柳戸 信吾氏  
(飯能市教育委員会生涯学習課)  
8月6日 尾崎泰弘・大野聡子(当館学芸員)  
井上茂樹・櫻井なを子(当館職員)



## 1 目的

これまでの歴史教室では、3日間を通してひとつの共通したテーマを設定し実施してきた。今年は、個々人によって関心を持つ内容も異なることが考えられるので、歴史・民俗・考古の各分野に関わる体験学習を行うことにより、広く歴史に親しんでもらうことを目的とする。

## 2 内容

8月4日「調べよう 石の仏さま」

古いものはお寺や神社にばかりあるとは限らず、学校への通学路の途中にも歴史をもつものは存在

する。そうした何気なく目にしているものが実は150年、200年の歴史をもっていたりする。こうしたものを観察し、記録する手段としての拓本を採ってみて、身近な歴史を体験してもらう。

8月5日「遺跡の発掘現場の体験と見学」

遺跡から発掘される資料は、昔の人々が実際に作り、使っていたものであるだけに、何千年、何百年の時を越えてその息吹を感じることでできるものである。マスコミのおびただしい報道の一方で、身近なところでもそういった調査が行われていることは案外知られていない。そこで、遺跡の発掘を見学、体験することによって遺物に触れ、関心をもってもらうことを目的とする。

8月6日「むかしのくらし」

日常生活で使っている道具や機械はそれぞれが幾多の変遷を経て今の形になったものである。当館が収蔵している民具の中にはこうした形の変化を跡づけられる資料もある。そこで身近なところから昔の生活について想像してもらうため、昔の生活道具を観察することによって、それが身近にある現代の道具のどれにあたるかをクイズ形式で答えてもらう。また昔の道具を観察するとその工夫や知恵に驚かされることが多い。そこで実際にいくつかの民具を使うことによってそれを理解してもらう。今回は、唐箕、火のし、石臼の三つの道具を使用した。

## 平成6年度

### やさしい板碑教室

- 日 時** 平成6年5月22日(日)・29日(日)  
6月4日(土)・6月12日(日)  
午後2時～4時(ただし5月29日のみ)  
午前10時～午後3時)
- 対 象** 一般
- 会 場** 当館学習研修室ほか
- 参加人数** 9人
- 講 師** 岡野 達雄氏(飯能市文化財保護審議委員)



#### 1 目的

埼玉県には板碑が2万基以上あるといわれているが、飯能にも千を超える数が報告されている。中世の歴史資料のなかでも最も数が多く、また身近なところにあるこの板碑を通して飯能の中世を学ぶきっかけとする。

#### 2 内容

5月22日

板碑について、各部の名称、造立された時代的背景などについて概略を解説する。

5月29日(現地見学会)

郷土館～願成寺(川寺)～西光寺(原市場)～郷土館～智観寺(中山)～円照寺(入間市野田)

6月4日

前回の現地見学会を受けて、飯能市内の代表的な板碑についてやさしく解説する。

6月12日

3回目までのまとめをしたあと、講師とともに参加者が中世という時代について意見を述べる。

## 夏休み子ども歴史教室

- 日 時** 平成6年8月3日(水)・4日(木)・5日(金)  
いずれも午前9時30分～11時30分
- 対 象** 小学生高学年
- 会 場** 当館学習研修室ほか
- 参加者数** 21人
- 指 導 者** 8月3日・4日 大野聡子・尾崎泰弘(当館学芸員)  
8月5日 山岸 統氏(加治東公民館長)



### 1 目的

今年の歴史教室のテーマは歴史の調べ方である。教科書に書かれていることを覚えるだけが歴史ではなく、実際に観察したり、聞いたり、自分で調べたりすることの方が歴史を調べる上で重要な作業であることを知ってもらう。ただし、子どもたちの興味、関心を引きつけるためにクイズ形式にしたり、動き回ったりしてもらうようにする。

### 2 内容

#### 8月3日「探検!! 郷土館」

郷土の歴史を調べる上で重要なポイントは、地元の博物館を上手に利用することである。今回は、展示だけではなく、博物館が持っている様々な情報を引き出す方法を学んでもらう。館内もしくはその周辺にポイントを設け、地図を頼りにそれを見つけ、クイズに答えてもらう。

#### 8月4日「民具ってなんだろう」

ものをよく観察することも歴史を調べる上で重要な作業となる。収蔵している民具を使用し、それを測ったり、動かしたりすることにより、観察の方法を知ってもらう。民具は蚊帳、洗濯板、火のしなどを使用した。

#### 8月5日「おじいちゃん、おばあちゃんへの質問状」

当初はお年寄りに実体験に基づいた話を子どもたちにしてもらおうと思ったが、それだけでは飽きてしまうため、飯能の方言についてのカルタを用意し、それと今の言葉を結びつけ、その中のいくつかの言葉に関わる昔の話(養蚕や子どもの遊び、年中行事などについて)を講師の人にってもらう。

## 金属文化講演会(名栗川金属文化の会共催)

### 「製鉄遺跡から見た古代から中世の関東地方の鉄文化について」

- 日 時** 平成6年10月30日(日)午後1時30分～
- 対 象** 一般
- 会 場** 当館学習研修室
- 参加者** 36人
- 講 師** 穴沢 義功氏(たたら研究会委員)

## やさしい古文書講座「むかしの飯能を探そう」

- 日 時** 平成6年11月6日(日)・13日(日)  
20日(日)・27日(日)・12月4日(日)  
いずれも午前10時～11時30分
- 対 象** 一般

会 場 当館学習研修室  
 参加者数 14人  
 講 師 浅見 徳男(当館館長)

## 1 目的

1990(平成2)年の秋に実施した古文書講座は、その後「古文書同好会」というグループを結成して、自主活動を続けている。その席でも新規の講座を実施したほうがよいとの声があり、また一般の人からも講座実施の要望をきく。そこで古文書に触れたことのない人たちを対象として、誰にでもわかる入門編の講座を企画し、できれば、先のグループのように自主サークルとして育つことを最終的な目標とする。

## 2 内容

11月6日(導入)

古文書という言葉の意味、種類、調査する目的について解説する。

11月13日

御成箇(年貢)の割り付けから、当時の村方の仕組みや村人の生活を知ってもらう。

11月20日

石灰荷物預け出入りで、飯能村の太郎右衛門が新河岸の弥平次を訴えた古文書を使い、当時の裁判制度について解説する。

11月27日

領主である黒田氏の財政逼迫により、領地の村々から借入金の調達を図り、台所賄いをしようとした。そのときの村方文書を用い、黒田氏の支配の様子を理解してもらう。

12月4日

武州一揆の関係史料をもとに、幕末における大きな事件の様子を読みとってもらう。

## 平成7年度

### 夏休み子ども歴史教室

日 時 平成7年8月9日(水)・10日(木)・11日(金)

いずれも午前9時30分～11時30分

対 象 小学生高学年

会 場 当館学習研修室

参加者数 30人

指 導 者 大野 聡子(当館学芸員)



## 1 目的

今年のテーマは「機織り」である。洋服やバック、カーテン、クッションなど身の回りには布を使った製品があふれている。そんな身近な布を取り上げ、その歴史、道具の変遷を知り、簡単な機織り機を作り、実際に機織りをしてみることで、先人たちの努力と苦労を実感する。また、飯能の地場産業としても織物が盛んだったことにも触れ、興味を持つきっかけとしたい。

## 2 内容

8月9日「糸を紡ごう」

布を作るのには何が必要かを知り、その糸を作るのにどれだけ昔の人が苦勞したかを実際に自分で紡錘車を作り、糸を紡ぐことで体験する。

8月10日「はたおりをつくろう」

まず布はどのようにできているのか観察し、その織り方のパターンを作ってみて布の織り方を知る。次に簡単な布の織り道具を自分で作ってみる。道具を作るという作業は、道具を与えられてばかりいる子どもたちにとって大切な体験になるものと思われる。また、3日目の学習の材料にもなり、その導入にもなる。

8月11日「オリジナルの布を作ろう」

自分で作った道具を使い、オリジナルの布を作る。どのようにしたら織りやすいかを考え工夫しながら織ってもらう。その過程で糸巻きに緯糸を巻いたり、綜統のしくみを理解させ、昔の人の知恵を学ぶ。

### 金属文化講演会（名栗川金属文化の会共催）

#### 「畠山重忠と金属文化」

日 時 平成7年10月29日(日)午後1時30分～  
 対 象 一般  
 会 場 当館学習研修室  
 参加者 45人  
 講 師 清水 寿氏(医学博士・畠山重忠研究家)

### 民俗行事のつどい(中央公民館共催)

#### 「ひなまつりってなあ～に？」

日 時 平成7年2月24日(土)午後2時～4時  
 対 象 ひなまつりに関心のある人  
 会 場 中央公民館調理室  
 参加者 29人  
 講 師 原 次男氏

## 1 目的

1年を彩ったいろいろな年中行事も近年行われなくなっているものが増え、また残っているものでも形式化し、それが元来どのような祈りを持つものであったかが意識されなくなっている。そこで年中行事のなかでも比較的よく行われているひなまつりを例に、その行事の意味をもう一度確認してもらうことを目的とする。

## 2 内容

ひなまつりに不可欠な食べ物である菱餅・草餅などを作りながら、ひなまつりの由来やこの地方の昔のひなまつりの様子を学ぶ。

# 資料・施設の利用

## (1) 収蔵資料の利用(閲覧・貸し出し)

郷土館には、昔の生活用具や仕事の道具などの民俗資料、古文書などの文字資料、写真やビデオなどの映像資料など、さまざまな郷土にかかわる資料を収蔵している。これらの資料は特別展や講座、学習会など館の主催する事業に使用されるだけでなく、資料を傷めない範囲で市民をはじめ、郷土や歴史を研究している人たちに利用していただいている。

平成2年度

	資料名	利用者名	目的	期間
1	ヨキ・腰鉈・アイガリなど26点	ミズノ株式会社	木ごころ祭りのため	4/25~5/1
2	「飯能入間川間電気鉄道布設願」など4点	個人	郷土史研究	5/4
3	「岡部氏系図」写真フィルム	埼玉県県民部県史編さん室	『埼玉県史』の編さん	5/9~5/31
4	「草稿」「(俳誌)」2点	個人	埼玉の俳諧史研究	5/12
5	常楽院軍荼利明王立像写真フィルムなど7点	(株)第一アートセンター	『日本の仏像大百科』掲載	6/9~9/30
6	堂前遺跡2次調査出土土器1式	下総考古学研究会	研究	6/15
7	『秩父甲州往還』『入間川の水運』	市都市整備課公園緑地係	河川敷運動公園整備事業の参考	8/15~8/31
8	「奉差上御請書之事」など14点	個人	修士論文の作成	9/2~12/28
9	「非常道具役付書」など4点	//	研究	9/13
10	写真アルバム3冊	(社)飯能青年会議所	広報誌「はんなーら」掲載	9/27~9/28
11	諏訪八幡神社獅子舞写真プリントなど4点	//	//	9/28~10/17
12	「差上申済口証文之事」など4点	個人	修士論文の作成	10/6~12/28
13	「(商用日記)」など3点	//	//	10/9~1/12
14	玉瓜「句集(草稿)」など2点	//	埼玉の俳諧史研究	10/18~10/20
15	『秩父甲州往還』	//	古道の調査	10/24~10/30
16	座繰り・糸取り鍋など9点	駿河台大学野沢ゼミ	学園祭の展示	11/9~11/12
17	糸車	飯能第一小学校	国語科の授業に使用	11/25~12/9
18	玉瓜「句集」2点	(株)I. U. C	埼玉県広報番組「ふるさとに拾う」インサート素材	12/23
19	飯能戦争コーナー展示資料	個人	研究	12/28
20	大通りの商家写真フィルム	名栗川をまっと知る会	中公まつりの展示	3/3~3/10
21	「餘業産物書上帳」など4点	個人	卒業論文の作成	2/26~2/27
22	「給桑」「畑うない」などの写真フィルム6点	日高町教育委員会	高麗民俗資料館の写真パネル作成	3/6~3/31

平成3年度

	資料名	利用者名	目的	期間
1	「薬師如来座像」写真プリント	(株)創美	住宅都市整備公団情報誌「かるがも通信」に掲載	4/19~5/31
2	史料保存台帳3冊	一橋大学経済研究所	学術研究	5/14~5/18
3	「三箇村浮土連名覚帳」	個人	卒業論文の作成	5/21~5/23
4	「村会決議書類」など59点	一橋大学経済研究所	飯能市旧村の行政資料調査	5/21~5/22
5	「事務報告」など14点	//	//	5/22
6	「吾野村会議録」など25点	//	地方税関係資料の調査	5/29~6/11
7	常楽院軍荼利明王立像写真フィルムなど3点	市生涯学習課文化財係	指定文化財パンフレットに掲載	5/30~6/30
8	『飛行少年』など11点	市立図書館	展示	6/1~9/30
9	「須田家日記」3点	個人	民俗調査	6/4~7/4
10	「産業統計下調書」など15点	一橋大学経済研究所	統計資料及びその周辺資料の調査	6/4
11	「徴発物件表編冊」など36点	//	地方税関係資料の調査	6/11~6/27
12	能仁寺本堂写真プリントなど2点	市自治振興課	テレビ埼玉で飯能を紹介	6/12~7/5
13	「埼玉県茶業調査」など19点	一橋大学経済研究所	戦前期統計資料、周辺資料の調査	6/18
14	「商金高調」など22点	//	//	6/19
15	「物産取調帳」など13点	//	//	6/19
16	「軍需調査報告資料」など27点	//	飯能市旧村の行政資料調査	6/19
17	「須田家日記」3点	個人	民俗調査	6/25~7/25
18	能仁寺写真フィルムなど2点	市自治振興課	パネル作製	6/26~7/5
19	「商業売上金高調」など110点	一橋大学経済研究所	飯能市旧村の財政・産業の調査	6/27~7/9
20	「戸籍統計」など29点	//	戦前期統計資料、周辺資料の調査	7/5
21	画「HANNŌ」写真フィルム	市生涯学習課	第2回文化振興シンポジウム総合プログラムに掲載	7/30~8/10
22	「須田家日記」	個人	民俗調査	7/30~8/30
23	「南高麗村村勢要覧綴」など3点	一橋大学経済研究所	飯能市旧村の戸数計算などの調査	8/2~8/12
24	「地方税追徴戸数等級割元帳」など14点	//	飯能市旧町村統計資料調査	8/6
25	堂前遺跡出土石器	個人	研究	8/13
26	収蔵レコードの表紙	//	//	8/16
27	「勸業二関スル書類など」4点	一橋大学経済研究所	飯能市旧町村の産業統計調査	8/17~8/23
28	「名栗川筏唄」レコード	個人	研究	8/17

	資料名	利用者名	目的	期間
29	「質物相渡申畑手形之事」など103点	個人	西川林業史研究	8/23
30	「百姓持山町歩名寄帳」など28点	//	//	8/31
31	「南村中沢村御水帳写」ほか21点	//	//	9/1
32	「南村中沢村御水帳写」ほか21点	//	//	9/3
33	常楽院軍荼利明王立像写真フィルムなど8点	毎日新聞社	『秘仏』に掲載	9/12~11/30
34	常楽院軍荼利明王立像写真フィルムなど2点	市商工観光課	奥武蔵ハイキングガイド作成	9/19~10/30
35	「郡役所進達書類控綴」など33点	一橋大学経済研究所	戦前期地域経済社会に関する調査	9/20
36	「飯能村絵図」	個人	研究	9/25
37	加能里遺跡・中橋場遺跡出土遺物	//	卒業論文作成	10/16
38	//	//	//	//
39	「税金徴税伝令書」など17点	一橋大学経済研究所	戦前期地域経済社会関係資料収集	10/18
40	「下我野村御縄打水帳」など37点	個人	西川林業史の研究	10/26~10/27
41	石臼	加治小学校	生活科研究発表	11/8~11/16
42	「須田家日記」3点	個人	郷土史研究	11/19~12/19
43	「田畑持林都合帳」など49点	//	林業史研究	11/22~11/23
44	「南村中沢組御水帳写」など48点	//	西川林業史の研究	11/23
45	管巻き	飯能第二小学校	国語科学習	11/27~12/10
46	「愛国婦人会関係書類」など31点	一橋大学経済研究所	飯能市旧町村の行財政資料の調査	12/3
47	「愛国婦人会関係書類」など25点	//	//	12/7~12/17
48	「須田家日記」3点	個人	郷土史研究	12/20~1/20
49	『鱧口の由来』	//	研究	1/14~1/31
50	「下吾野郷検地帳」など12点	//	西川林業史の研究	1/14~1/15
51	防空頭巾・慰問袋など3点	飯能第二小学校	国語の授業で使用	1/23~1/31
52	「須田家日記」2点	個人	民俗研究	1/25~2/29
53	「大川原村御地詰水帳」など60点	//	西川林業史の研究	1/26~1/27
54	「高麗郡三十三カ所巡礼詠歌」など2点	//	高麗三十三観音札所寺院調査	2/20
55	自在鉤	ひさ工房	自在鉤の作成	3/17

	資料名	利用者名	目的	期間
1	石臼	自由の森学園人間生活科	授業に使用	4/28~5/13
2	「武蔵野電車沿線案内」など3点	日本テレビ放送網株式会社	番組で紹介	5/1~5/8
3	飯能市空撮ビデオなど2点	加治小学校	社会科の授業で使用	6/30~7/2
4	飯能市指定文化財写真パネル6点	(株)第一勧業銀行飯能支店	開店20周年行事	7/7~12/15
5	ビデオ「飯能の生い立ち」	飯能ペペ設立準備室	創立総会にて飯能市を紹介	7/31~8/4
6	木挽き関係写真フィルムなど24点	埼玉会館	「埼玉の仕事唄」展パンフレットに掲載	7/31~8/20
7	「市の花」写真フィルム	市都市整備課	県へ提出	8/19~8/21
8	前挽鋸など11点	埼玉会館	「埼玉の仕事唄」展展示	9/1~10/24
9	『飯能市史』地形・地質	飯能プリンスホテル	研究	9/25~10/10
10	常楽院軍荼利明王立像写真フィルム2点	埼玉県広聴広報課	県勢概要に掲載	9/30~10/31
11	ビデオ「飯能の生い立ち」	富士見公民館	高齢者学級の企画	10/1~10/22
12	ビデオ「古代を掘る」など3点	//	高齢者学級「なんでも学習会」	10/22~10/26
13	「長沢村御水帳」など4点	個人	調査研究	10/31
14	『西川音頭』のテープなど4点	西武飯能ペペ	研究	11/18
15	「穀相場書上」など17点	個人	玉川上水通船事業に関する研究	11/29
16	「長沢村御水帳」など2点	//	調査研究	12/5
17	//	//	//	12/6
18	「吾野村全図」など2点	//	小名の調査、研究	12/10
19	「飯能焼」写真フィルム2点	埼玉県立歴史資料館	『埼玉の窯業』に掲載	12/25~1/31
20	「木挽唄」のテープなど2点	加治小学校	授業で使用	1/27
21	南小学校写真プリントなど4点	吾野公民館	小冊子に掲載	3/5

	資料名	利用者名	目的	期間
1	高山不動の大銀杏写真フィルム	個人	『埼玉の古木・巨木』に掲載	5/8~5/20
2	「商」展展示風景写真フィルムなど14点	市広聴広報課	広報「はんのう」に掲載	5/25~6/5
3	飯能焼写真フィルムなど5点	埼玉県高齢者生きがい振興財団	雑誌に掲載	5/27~6/20
4	手甲、脚絆、腹掛	個人	英国ナショナルトラストワークキャンプで使用	6/19~7/10
5	飯能市空撮ビデオ	飯能第一小学校	社会科学習	7/6~7/20
6	市内商店の引札など52点	銀座通り商店街	展示	7/20~8/31
7	「飯能町商励会広告祭」の写真フィルムなど21点	個人	『写真集飯能市の昭和史』掲載	10/12~12/28
8	座繰	〃	写真撮影	10/29~11/30
9	筏下り実演ビデオ	飯能第一小学校	授業	11/12~11/30
10	自転車(民具)	個人	展示	11/21~11/29
11	「高山村一件願書」など22点	〃	研究	11/20
12	「杜家出入訴状」など21点	〃	〃	12/4
13	「神職人名簿」など15点	〃	〃	12/12
14	ビデオ「飯能の文化財」など3点	〃	飯能の景観条例の勉強会	1/22~1/26
15	ビデオ「飯能の生い立ち」	〃	研究	1/26
16	銀座通り写真フィルムなど2点	銀座通り商店街	春の売り出しチラシに掲載	3/6
17	飯能焼写真フィルム	市広聴広報課	市勢要覧に掲載	3/8~4/15
18	かさ、しゅろみの	原市場中学校	校内演劇に使用	3/10~3/11
19	長光寺雲版(レプリカ)	飯能ケーブルテレビ	ビデオ録画	3/26

	資料名	利用者名	目的	期間
1	大通り商店街写真フィルムなど11点	飯能市郷土芸能保存会	研究	5/3~5/10
2	「武漢陥落パレード」写真フィルムなど2点	//	//	5/17~5/21
3	木挽歌・筏歌のテープ	郷土の民謡研究会	発表会で使用	5/20~6/4
4	市指定文化財写真フィルムなど6点	市生涯学習課	補助事業書類添付	5/31~6/8
5	加能里遺跡出土爪形文土器3点	//	報告書の作成	5/31~6/30
6	郷土史研究会関係写真フィルム2点	飯能郷土史研究会	『郷土はんのう』に掲載	6/8~6/11
7	民俗文化財調査票など7点	市生涯学習課	民家調査実施のための参考	7/12
8	民具収蔵資料リスト	飯能第一小学校	授業の準備	7/21~7/22
9	『続続民俗茶ばなし』など6点	個人	『都道府県別方言辞典』編集	7/24~10/10
10	ビデオ「飯能の文化財Ⅰ」	飯能ロータリークラブ	文化財の勉強	8/2~8/11
11	『南高麗村誌』など16点	南高麗郷土史研究会	郷土史発行準備	8/3
12	指定文化財ネガファイルなど2点	市生涯学習課	指定文化財写真展に使用	8/16~9/1
13	ビデオ「飯能の文化財Ⅱ」	仏教美術学習会	事後学習会に使用	8/20
14	阿寺太々神楽写真フィルム	飯能市郷土芸能保存会	保存会記念誌に掲載	9/1~9/5
15	筏流し写真フィルムなど2点	入間市教育委員会郷土博物館建設準備室	入間市紹介ビデオの製作	9/13~9/20
16	筏流し写真プリント	//	ビデオ製作	9/14
17	あんぺら、柄鞆など14点	飯能第一小学校	郷土学習「宮沢湖の開発」に使用	9/14~10/15
18	宮沢湖関係写真アルバム	西川小学校	社会科学習	10/2~10/31
19	民具収蔵資料リスト	飯能銀座商店街	研究	10/4~10/16
20	ジョレン、あんぺらなど11点	西川小学校	社会科学習	10/22~11/6
21	東吾野消防団纏など4点	飯能銀座商店街	火消し装束展での展示	11/1~11/5
22	筏流し写真プリント	個人	『都道府県別方言辞典』編集	11/5~3/31
23	「謡曲地拍子研究之栞」	//	謡曲学習	11/12~12/10
24	纏写真フィルムなど2点	南高麗郷土史研究会	『南高麗郷土史』に掲載	12/10~12/28
25	あんどん、自在鉤など13点	加治東小学校	3年生の社会科の見学	1/10~1/31
26	『飯能市史』社寺教会編用フィルムなど3点	南高麗郷土史研究会	南高麗郷土史編さん	1/31~2/28
27	絵画「詩人K氏の肖像」	飯能絵画連盟	早瀬龍江遺作展	2/21~3/1
28	『飯能文化』第1巻など14点	福生市郷土資料室	「20世紀多摩の文化運動」展	3/10~6/10
29	縄ない機、わらじなど5点	飯能郷土市研究会	藁についての講演会	3/26
30	所蔵者別資料台帳3冊	駿河台大学文化情報学部	共同研究「埼玉県西部山麓地域の基礎的研究」の資料	3/26~3/28

	資料名	利用者名	目的	期間
1	ビデオ「飯能焼シンポジウム」	個人	研究	5/9~5/31
2	ビデオ「飯能の文化財Ⅲ」	飯能ロータリークラブ	文化財の紹介	5/20~5/31
3	「消息詞」など7点	謙堂文庫	研究	6/9
4	常設展示図録用写真ファイル	市生涯学習課	埋蔵文化財地図に掲載	6/14~7/20
5	瓦2点	原市場小学校	社会科学習	6/25~7/9
6	「五人組御改帳」など14点	駿河台大学文化情報学部	記録管理史研究	8/1
7	大通りの写真プリント	飯能南高校	P T A広報誌に掲載	8/11~1/31
8	「写真広報」掲載写真プリント49点	トータルメディア開発研究所	展示計画	8/16~8/23
9	中山家範館跡の写真フィルムなど3点	市生涯学習課	指定文化財写真展	8/19~9/5
10	『飯能の伝説』	埼玉県高齢者福祉課	県民福祉研修の森の名称検討	8/25~9/30
11	所蔵者別資料台帳7冊	個人	研究	8/25
12	常楽院軍荼利明立像写真フィルム	市生涯学習課	補助金事業計画書添付書類	8/29~9/5
13	ビデオ「飯能の獅子舞」	双柳小学校	運動会表現運動	9/3~9/5
14	「名栗川愛唱歌謡集」テープ	郷土の民謡研究会	発表会	9/20~9/27
15	「京都御用留」など2点	蓮田市郷土資料館	蓮田市史の編さん	9/29~11/30
16	「名栗川筏唄」レコード	郷土の民謡研究会	民謡の練習	9/30~11/10
17	指定文化財ネガアルバム	市消防本部	消防庁舎地図検索装置インプット	10/6~10/9
18	宮沢湖関係写真アルバム	加治東小学校	社会科学習	10/19~10/31
19	加能里遺跡出土土偶2点	大井町教育委員会	「縄文の風景」展に展示	10/31~12/1
20	八高線列車事故写真プリント	市消防本部	防災センターに展示	11/30~12/15
21	「指上申手形之事」など24点	個人	近世日本における記録管理史研究	12/6
22	「入間川馬車鉄道営業報告」など2点	//	郷土史研究	12/10
23	「入間川馬車鉄道より願出」など3点	//	//	12/12
24	消防点検写真プリントなど2点	トータルメディア開発研究所	展示パネルの作成	12/14~12/22
25	常設展示食物レプリカなど30点	狭山市立博物館	「狭山の縄文時代」展示資料製作	12/23~4/18
26	天秤はかり、あんかなど13点	加治東小学校	社会科学習	1/12~1/31
27	箱まくら、アイロンなど19点	//	//	1/17~1/31
28	火のし、あんかなど9点	飯能第一小学校	//	1/25~2/3
29	小岩井渡場遺跡出土資料	個人	大型尖頭器の研究	2/23
30	鳶口2点	西部広域事務組合	防災センターに展示	2/23~
31	広告塔の古写真	毎日新聞社	雑誌『アミューズ』掲載	3/6~3/12

## (2)施設の利用

### ①特別展示室

飯能市郷土館条例施行規則では、教育、学術及び地域文化の振興を目的とする個人又は団体が、特別展示室、学習研修室及び図書室を郷土館の目的にそった研究会、展示会等に利用できるとしている。特別展示室の利用に関しては①営利を目的とする利用はできない。②個展としての利用はできない。(ただし飯能の歴史や文化・風土に関するもの場合は除く)③開始4ヶ月前までに申込をしてもらいそれを郷土館協議会で審議して利用を決定する、という条件が郷土館協議会で決められている。

#### 平成3年度

##### 郷土館ギャラリー「飯能の陶芸家たち」

期 間	7月2日(火)～8月31日(土)
主 催	飯能市郷土館友の会
期 間	53日
入館者数	4,979人(1日平均93.9人)



#### 平成4年度

##### 「名栗川流域の金属文化と伝承」展

期 間	7月1日(水)～7月31日(金)
主 催	名栗川金属文化の会
期 間	27日
入館者数	2,572人(1日平均95.3人)



## ②学習研修室

学習研修室は、当館の主催事業のほか、飯能の歴史や地域文化の振興に関わる活動を行っている団体、サークルなどを中心に利用されている。その他、団体での見学者や市内の小学生の見学、他の市町村からの視察の対応などにも使用されている。

### 平成2年度～平成7年度の月別利用件数

年度 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
平成2年度	8	3	12	3	7	5	7	3	5	2	4	5	64
平成3年度	6	8	6	6	6	7	3	4	4	4	5	9	68
平成4年度	3	7	5	7	7	7	7	5	5	6	4	4	67
平成5年度	5	9	7	15	7	10	10	12	11	9	6	6	107
平成6年度	7	11	8	7	8	6	8	14	9	7	8	9	102
平成7年度	7	3	11	7	10	6	9	5	8	12	8	10	96
合 計	36	41	49	45	45	41	44	43	42	40	35	43	504

## ◎主な活動団体

### 平成2年度

飯能市郷土館友の会・飯能郷土史研究会・古文書同好会・社会科副読本編集委員会など

### 平成3年度

飯能市郷土館友の会・飯能郷土史研究会・古文書同好会・「飯能の文化財」ビデオ編集委員会など

### 平成4年度

飯能市郷土館友の会・飯能郷土史研究会・古文書同好会・名栗川金属文化の会・郷土の民謡研究会・「飯能の文化財」ビデオ編集委員会など

### 平成5年度

飯能市郷土館友の会・飯能郷土史研究会・古文書同好会・郷土の民謡研究会・名栗川金属文化の会・仏教美術学習会・「飯能の文化財」ビデオ編集委員会など

### 平成6年度

飯能市郷土館友の会・飯能郷土史研究会・石仏談話会・古文書同好会・仏教美術学習会・郷土の民謡研究会・名栗川金属文化の会など

### 平成7年度

飯能市郷土館友の会・飯能郷土史研究会・石仏談話会・古文書同好会・仏教美術学習会・郷土の民謡研究会・名栗川金属文化の会など

## ◎平成7年度末現在で活動している学習サークル

### 飯能市郷土館友の会

- 設立 平成2(1990)年4月  
目的 1. 郷土館活動を後援し、同時に会員相互の連携と親睦を深める。  
2. 展示・収蔵資料を通して知識を培い、飯能市の歴史にもとづく文化活動を広めていく。  
代表者 大野邦弘  
会員数 500人  
活動 まゆ玉作りなどの例会のほか、秋にはバスツアー（博物館めぐり）を開催している。

### 飯能郷土史研究会

- 設立 昭和48(1973)年7月  
目的 郷土の歴史を研究し、市民文化の進展に寄与する。  
代表者 井上峰次  
会員数 147人  
活動 年3回の例会のほか、秋にはバスツアーを開催している。

### 古文書同好会

- 設立 平成3(1991)年4月  
目的 飯能市内の古文書の解読と時代背景の研究及びその活字化  
代表者 新井秀穂  
会員数 18人  
活動 毎月第2・4土曜日

### 名栗川金属文化の会

- 設立 平成2(1990)年  
目的 飯能・名栗の製鉄文化を中心に研究し、古代から近世にかけての製鉄文化の流れを明らかにする。  
代表者 山口晋平  
会員数 26人 会友2人  
活動 隔月に例会を行うほかに見学会も随時開催。年5回会報発行。

### 仏教美術学習会

- 設立 平成6(1994)年11月  
目的 仏像・仏画・仏教建築の学習  
代表者 大野豊治  
会員数 17人  
活動 偶数月の第3土曜日に例会（うち見学会3回）

### 石仏談話会

- 設立 平成7(1995)年1月  
目的 石仏を通してその時代背景や歴史、文化を学ぶ。  
代表者 双木貞夫  
会員数 30人  
活動 毎月第1土曜日（奇数月が学習会、偶数月は見学会）

# なぜなにポスト

## 1 なぜなにポスト設置の意味

これは、展示を見て疑問に思ったこと、館に対する意見、その他歴史全般に関する質問などを記入し投書してもらうために、平成2年8月21日より休憩コーナーに設置している。郷土館ではこれを館と入館者をつなぐパイプの役割を果たすものとして位置づけ、質問に対しては追って回答を郵送することになっている。回答は投書されてから1ヶ月以内に届くように努力しているが、答えに難しい質問も多く実際にはそれよりも日数を要して返送している。子どもたちの中には、返事の来るのを楽しみにしている子や常連となっている子などもいる。

## 2 ポスト利用者数

	ポスト全利用者数	回答数	意見・希望数	その他
平成2年度	227	20	119	28
平成3年度	238	72	149	17
平成4年度	264	119	35	110
平成5年度	223	82	73	68
平成6年度	209	88	76	45
平成7年度	169	42	64	63

## 3 ポスト利用者の意見・希望

<良いと思う点>

- ・縄文人
- ・平地のくらしのコーナー（季節ごとに道具や写真が見られる）
- ・内装、設備
- ・常設展示全般（飯能の発展の様子がよくわかった）
- ・無料開放、など

<特別展・講座で取り上げて欲しい題材>

- ・石器作り
- ・映画（昔のもの）
- ・飯能に咲く草花、動物の展示、など

<改善して欲しい点>

- ・常設展示資料を多く。（戦国時代のもの、2階にも展示室が欲しい）
- ・動くものが欲しい。（しゃべる人形、筏の人の説明）
- ・図書室を広くして欲しい。
- ・体験学習の場が欲しい。（竪穴式住居、昔の人の生活、昔の遊び体験）
- ・解説にルビをふって欲しい。
- ・図書室の本の貸し出し、など

# 収 集

飯能市郷土館は「もの」資料を通して市民が歴史や郷土のことについて学習するための社会教育機関である。そのためには、「もの」資料を収集し保存することが不可欠であるが、その多くは市民からの寄贈によって成り立っている。また、寄贈いただいた資料は市民の財産として永遠に保存すべく、台帳に登録し、整理し、収蔵庫にて管理されていくことになる。

## 寄 贈 資 料

(敬称略)

平成2年度

	資 料 名	員数	寄 贈 者 名
1	「第二分団第六家庭担任者」タスキなど	22	井 上 次 子
2	香時計	1	清 水 廣
3	『奥武蔵の石仏』	1	大河原 志 ん
4	イチョウバ(下駄)	1	小 島 芳 治
5	『天の園』、『飯能市民の一般著作目録』など	14	赤 田 喜美男
6	「名栗川筏唄」「武蔵機織歌」等レコード	2	野 口 家 嗣
7	『飯能獅子舞誌』、古写真、絵葉書など	11	大河原 志 ん
8	ちょうな、皮まわし	3	中 島 志 伸
9	御大典奉祝記念写真	1	岡 野 志 浩
10	釜	1	岩 沢 幸 助
11	蚊帳	1	片 原 庫 治
12	大日本道中獨案内細見図	1	平 沼 治 夫
13	さしこ(腹掛け、股引、印半纏、帽子)など	6	菊 池 好 太 郎
14	シュロみの、墨壺、蚕種箱、お膳など	26	片 原 庫 治
15	レコード、こね鉢	70	北 条 武 一
16	いかり	1	小 川 川 一 雄
17	「東京日日新聞」第1号	1	西 村 一 男
18	とらばさみ	3	片 原 庫 治
19	防空頭巾、慰問袋、軍服、ゲートルなど	14	小 槻 章 光
20	『西伯利亚派遣日誌』、古写真	2	宿 谷 益 佳
21	燈火管制用電球	1	長 沢 一 隆
22	戦時中の国債	1	西 村 一 男
23	うちわ	10	大 矢 久 子
24	ます、そろばん、はかり	4	吉 澤 律 子
25	千石通し	1	関 口 弘
26	軸装	32	丸 山 清
27	『盲目物語』など	66	金 物 店
28	スクラップブック	20	熊 谷 高 次 郎
29	神主衣装(烏帽子・沓・狩衣など)	1式	〃
30	「高麗横丁備前屋」古写真	1	岡 野 志 浩
31	杼、『小学読本』、『国民読本』	4	加 藤 又 一
32	書籍(昭和前期のもの)	2箱	熊 谷 高 次 郎
33	三味線、このめかご	4	内 野 博 司
34	硯箱	1	金 子 比 紗
35	『飯能文化』11月号、色紙(蔵原伸二郎)など	34	小 川 文 雄
36	ピストル(昭和初期)	1	西 沢 義 三 郎
37	ひな人形、ボンボリ、座りびな	6	野 口 佐 一
38	ひな人形	2組	森 本 周 次
39	人形	2	西 野 清 吉
40	ひな人形	1組	中 野 村 源 一
41	短刀	1	山 崎 八 郎
42	ひな人形(組揃)	1箱	小 林 富 夫
43	フルイ、はかり、箕、はかり台箱	9	森 下 栄 次 郎
44	筭・櫛(セット)、下駄	2	細 田 志 げ
45	げた、帯	2	新 井 和 子
46	古銭	26	中 村 源 一
47	盃(日露戦争従軍記念)、従軍記事など	4	奥 津 清
48	ひな人形	1組	青 木 一 三
49	『三国志』など	100	岡 部 武 雄

	資 料 名	員数	寄 贈 者 名
1	『名宝日本の美術』	26	内野晃延
2	古文書	472	須田洋一郎
3	スケート下駄	1	西沢義三郎
4	障子、玄関戸	7	築地孝治
5	火縄銃	1	小川安三
6	謄写板	1	松原こども会
7	座りびな	2	小西沢義三郎
8	ひな段、ぞうり	2	神崎太一
9	『美術全集』、桧、杵	74	神野幸治
10	道中がっぱ、アイロン	2	山川清次
11	桧製玄関格子、吾妻障子、立箆障子など	25	山田清みづ
12	硬貨	59	吉須田洋一郎
13	典籍類	211	細田晴良
14	打製石斧	2	木崎良弘
15	二重廻し	1	斉藤伸夫
16	三八式歩兵銃	1	浅見宏
17	縄絢機、桑取り爪	5	浅沢義三郎
18	真空管ラジオ	1	西島良男
19	青年団関係資料	52	小谷高麗
20	スキー板	1	滝澤健一
21	『高麗王物語』、『国王誕生』	2	高麗正澄
22	『写された幕末』など	7	滝田健一
23	『新日本風土記』など	50	赤山和悟
24	『養蚕秘録』など	40	山口誠堂
25	木版(デコ版)類	140	浅井春恵
26	コンロ、練炭コンロ、炭箱、火消しつぼなど	5	浅野澤家
27	新名栗川小唄(カセット、ビデオ)	2	瀧中源一
28	幻灯	69	瀧澤村源
29	阿寺棒	2	吉沢朋子
30	武運長久刺しゅう布	1	森山清
31	「埼玉県官員録」、「地誌編輯例書」など	3	丸山二恒
32	二又鋤	1	島崎圭子
33	飯能市糸相場書上帳	3	小川文雄
34	句集「鳩車」	1	小林儀造
35	古文書	280	小野隆一
36	櫛、「医学開業前期試験及第之証」など	4	大野敏男
37	「賃銭表」(人力車取扱)など	5	都築孝一
38	木版教科書	20	森熊源一
39	タテ糸のヒワク	1	森山清
40	銘仙	3	瀧田健太郎
41	フネ、ヒシヤク(染色用)、緋板巻き機	4	町田勇一
42	三八式歩兵銃の弾丸、野砲の演習用模擬弾	2	桑原根義
43	羽子板、弓破摩、男びな	7	関根島里
44	『図説国民の歴史』	20	丸山清子
45	雲竜水(消防用ポンプ)	1	瀧田健太郎
46	シロケシ、人間薪炭同業組合員証	2	町田勇一
47	大根堀取器(ヤギリ)、木びき板	6	桑原根義
48	手車	1	関根島里
49	ひな人形、下駄、アイロン、わらぞうり	4	増田絹子
50	うけ、桶、鉄瓶、袷、長持など	11	山岸倉之助
51	荷車の車	1	吉田武彦
52	戸棚の戸	2	土屋真一

	資 料 名	員数	寄 贈 者 名
1	荷駄の鞍	1	島田寅吉
2	祭祀用馬の鞍	1	小谷野茂男
3	軍隊手帳(日清戦争)、矢立など	3	島田友由
4	『日清戦争実記』など	74	日野勇雄
5	日露戦争凱旋祝いの旗	1	石森秀雄
6	満蒙開拓団ちらし、凱旋小旗など	3	西村作三子
7	木版画	16	岸愛清
8	ミシン、茶壺	2	丸山清
9	『箋註蒙求校本』など	5	増田祐男
10	古文書、典籍	33	吉田利夫
11	お盆	1	精明公民館
12	スズメバチの巣	1	山川清次
13	おひつ、いすめ、かや	3	多田義三
14	古文書	1,154	半田実
15	ふいご	1	鍛冶音商店
16	板倉膳写板	1	土屋和行
17	支那事变従軍記章、出征旗寄書	6	小川唯七
18	あんか、かつらを置く台など	4	浅見恭二
19	家庭用消防ポンプ	1	西沢義三郎
20	明治12年地籍図写	1	小山健仁
21	蓄音機	1	飯能第一中学校
22	『道路修繕工事仕様書』など	4	白田昭一
23	写真アルバム	2	中里光男
24	手箱、たばこ盆、箱まくらなど	22	こめよし商店
25	飯能町の航空写真	1	大野哲夫
26	乳母車	1	新井慧一
27	中山氏、加治氏関係資料	1式	西野長治
28	引札、地券証、衣料切符など	54	小林正夫
29	軍服(一式)、映写機、はかりなど	5	佐野照子
30	欄間	2	加治東公民館
31	『開化七體いろは』、『実語教』など	4	中山忠三九
32	ちらし	1	西沢義三郎
33	手拭い、『日本地名大辞典』など	25	赤田健一
34	ふるしき、絵葉書、『飯能郷土の誌』	6	大久保久衛
35	引札	5	町田福人
36	北川地区体育祭ビデオテープ	1	北川小学校
37	『企業許可令第七条ニ依ル事業報告書』など	67	中村好男
38	花火大会プログラムなど	14	小川久雄
39	『関東の道』、『歴史街道』など	10	石川哲三
40	『越えてきた道』	5	小林正夫
41	『日本地名大辞典』など	31	赤田健一

	資料名		寄贈者名
		1	

収集



















































